

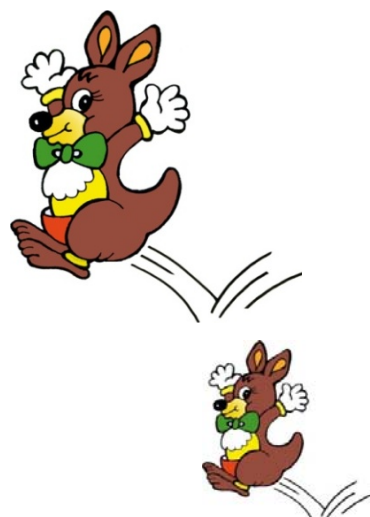
男女共同参画市民意識調査

結果報告書



平成26年3月

蕨 市



目 次

【調査の概要】

1	調査目的	2
2	調査の方法	2
3	調査項目	2
4	回収結果	2

【調査結果の概要】

1	意識	
問1	男女平等に関わる言葉の認知	3
問2	各分野の男女平等感	6
問3	男女共同参画社会への関心	8
問4	固定的性別役割分担意識	9
2	家庭生活	
問5	家庭での役割分担	10
問6	家事・子育て・介護に関わる所要時間	11
問7	結婚、家族、離婚についての考え	14
3	地域活動	
問8	女性会長が少ない理由	16
問9	地域活動への参加	17
問10	地域団体の中での性別役割団体意識	18
4	職場	
問11	職場にある男女差別	19
問12	育児介護休業制度の利用	21
問12-1	育児介護休業制度が利用できない理由	22
問13	仕事と生活の調和の実現	23
5	社会参加	
問14	地方自治体への反映	24
問14-1	反映されない理由	25
問15	ポジティブアクションについての考え	27
6	女性の人権	
問16	女性の人権が侵害されていると感じるもの	28
7	男女共同参画の取組	
問17	男女共同参画に必要なこと	30
問18	男女共同参画事業の認知度	32
8	自由意見	33
9	回答者の属性	38
	(1) 地区	
	(2) 性別	
	(3) 年齢層	
	(4) 職業	
	(5) 同居の家族	

【調査の概要】

1、調査目的

男女共同参画についての意識や実態を把握し、「第3次蕨市男女共同参画パートナーシッププラン」策定の基礎資料とするために実施

2、調査の方法

- (1) 調査対象：住民基本台帳に記録された20歳以上の市民1,000人
- (2) 調査方法：行政連絡員を通じて配布し、調査用紙は郵送で回収
(礼状兼催促状を1回送付)
- (3) 調査期間：平成25年4月23日～5月24日

3、調査項目

- (1) 意識 (2) 家庭生活 (3) 地域活動 (4) 職場 (5) 社会参加
- (6) 女性の人権 (7) 男女共同参画の取組 (8) 自由意見
- (9) 回答者の属性

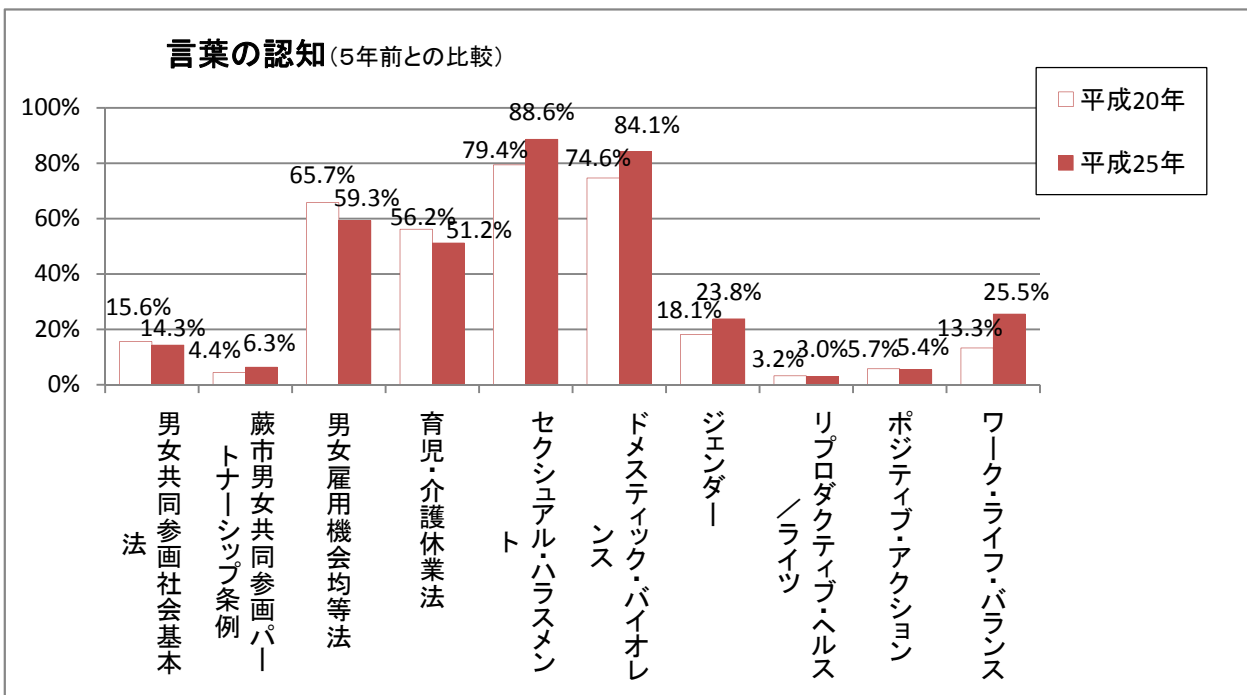
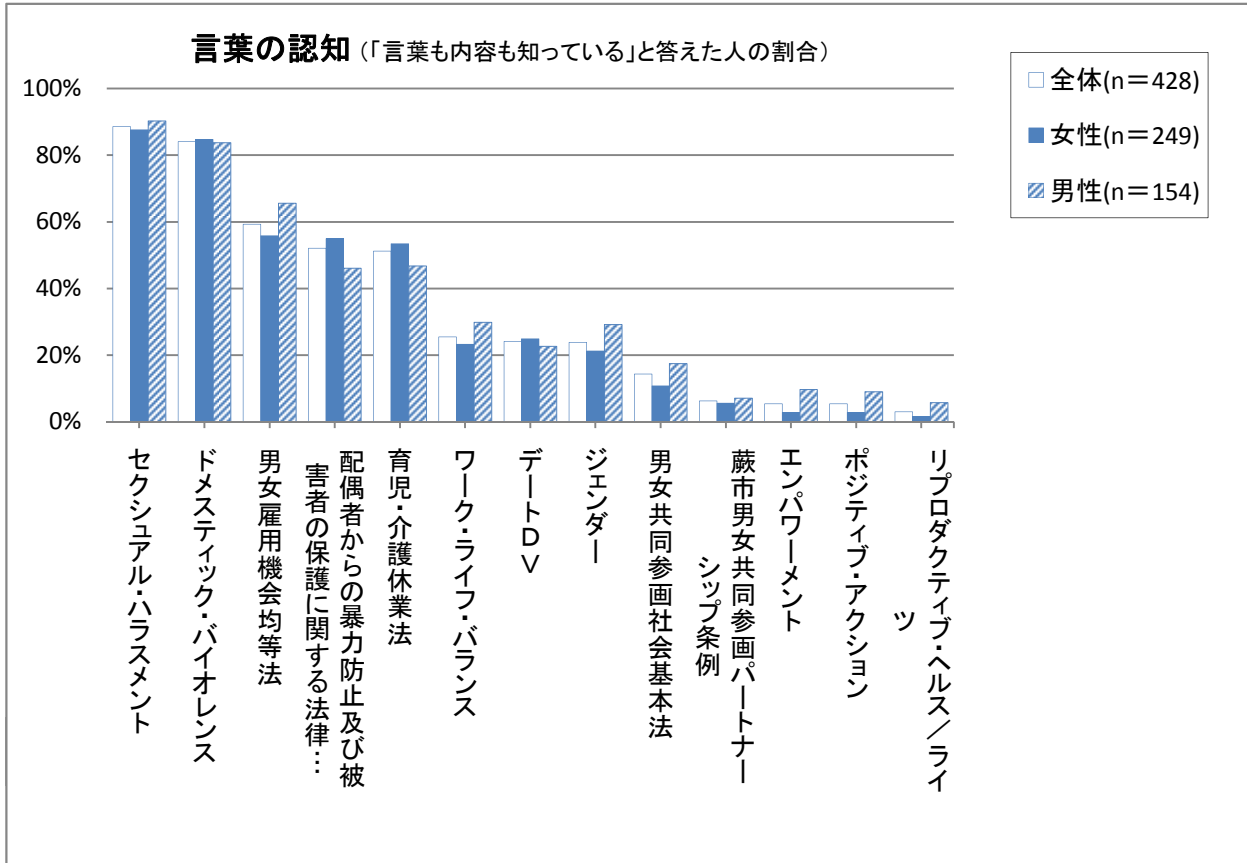
4、回収結果

配布件数	回収件数	回収率
1,000	428	42.8%

【調査結果】

1 意識

問1 あなたは、男女共同参画社会に向けた取り組みに関わる次のことから言葉をご存知ですか。



男女共同参画社会基本法

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	14.3%	10.8%	17.5%
聞いたことがある	42.1%	43.0%	41.6%
知らない	41.4%	43.0%	39.6%
無回答	2.3%	3.2%	1.3%

男女雇用機会均等法

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	59.3%	55.8%	65.6%
聞いたことがある	31.3%	34.1%	26.6%
知らない	6.5%	6.0%	6.5%
無回答	2.8%	4.0%	1.3%

配偶者暴力防止法

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	52.1%	55.0%	46.1%
聞いたことがある	36.4%	34.1%	40.9%
知らない	8.9%	7.6%	11.0%
無回答	2.6%	3.2%	1.9%

ドメスティック・バイオレンス

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	84.1%	84.7%	83.8%
聞いたことがある	10.5%	10.4%	11.0%
知らない	3.3%	2.4%	3.2%
無回答	2.1%	2.4%	1.9%

蕨市男女共同参画パートナーシップ条例

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	6.3%	5.6%	7.1%
聞いたことがある	25.0%	25.7%	22.7%
知らない	65.7%	64.3%	68.8%
無回答	3.0%	4.4%	1.3%

育児・介護休業法

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	51.2%	53.4%	46.8%
聞いたことがある	36.9%	36.9%	39.0%
知らない	9.1%	6.0%	12.3%
無回答	2.8%	3.6%	1.9%

セクシュアル・ハラスメント

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	88.6%	87.6%	90.3%
聞いたことがある	9.3%	10.0%	8.4%
知らない	0.5%	0.4%	0.0%
無回答	1.6%	2.0%	1.3%

ジェンダー

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	23.8%	21.3%	29.2%
聞いたことがある	26.4%	28.5%	22.7%
知らない	47.7%	47.4%	46.8%
無回答	2.1%	2.8%	1.3%

デートDV

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	24.1%	24.9%	22.7%
聞いたことがある	17.5%	16.5%	18.8%
知らない	56.1%	55.8%	56.5%
無回答	2.3%	2.8%	1.9%

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	3.0%	1.6%	5.8%
聞いたことがある	7.0%	6.0%	7.1%
知らない	87.9%	89.6%	85.7%
無回答	2.1%	2.8%	1.3%

ポジティブ・アクション(積極的格差是正措置)

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	5.4%	2.8%	9.1%
聞いたことがある	22.2%	22.1%	21.4%
知らない	69.9%	71.5%	68.2%
無回答	2.6%	3.6%	1.3%

ワーク・ライフ・バランス

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	25.5%	23.3%	29.9%
聞いたことがある	35.5%	36.1%	33.1%
知らない	36.7%	37.8%	35.1%
無回答	2.3%	2.8%	1.9%

エンパワーメント

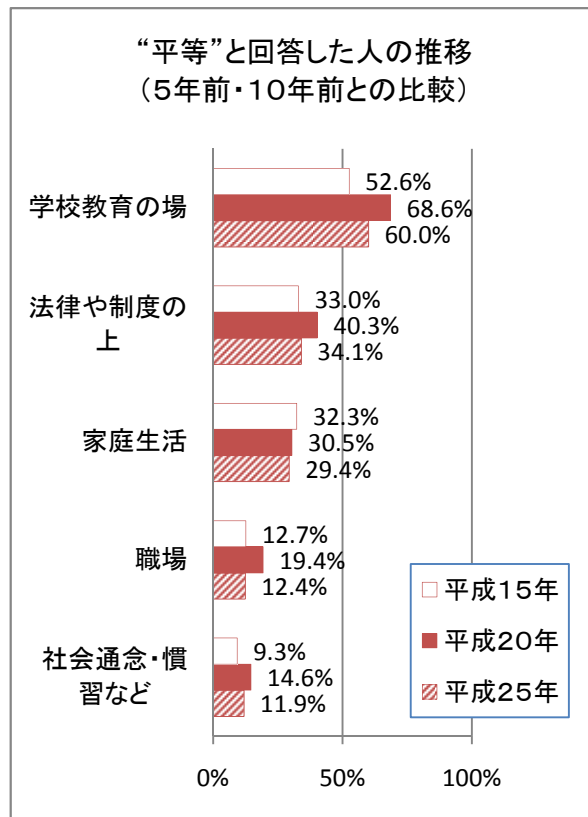
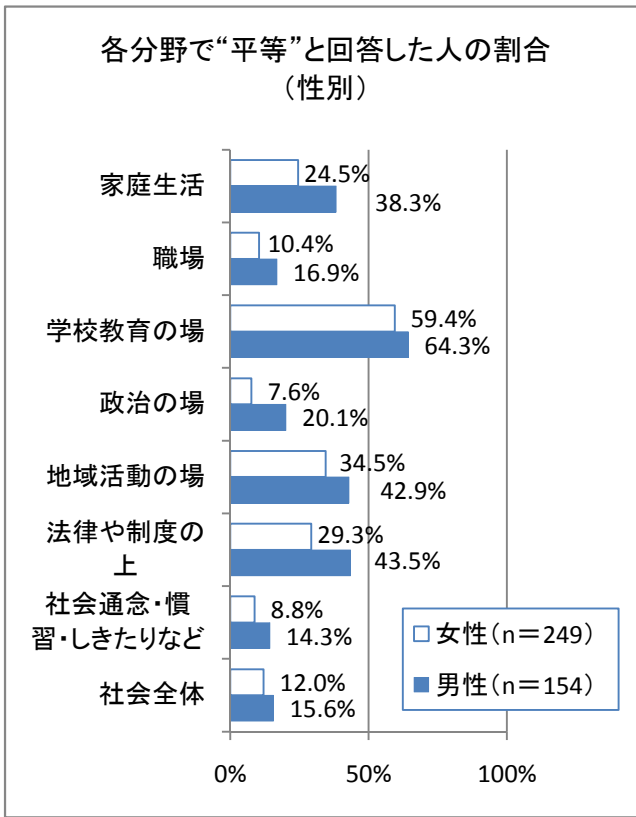
	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
言葉も内容も知っている	5.4%	2.8%	9.7%
聞いたことがある	15.9%	14.9%	16.9%
知らない	76.2%	78.7%	72.1%
無回答	2.6%	3.6%	1.3%

男女共同参画に関する言葉について、“言葉も内容も知っている”と最も多く回答があった言葉は「セクシュアル・ハラスメント」で全体で88.6%でした。次いで、「ドメスティック・バイオレンス」が84.1%、「男女雇用機会均等法」が59.3%となっています。また、“知らない”との回答は「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ」が87.9%、「エンパワーメント」が76.2%、「ポジティブ・アクション」が69.9%となっています。

男女別で見ると、「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」は女性の認知が高く、“言葉も内容も知っている”は55%で、男性の46.1%よりも8.9ポイント高い結果となりました。

平成20年に行った「市民意識調査」結果と比較してみると、「ワーク・ライフ・バランス」が13.3%から25.5%と、12.2ポイント上昇しました。

問2 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。



家庭生活

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
男性の方が非常に優遇	9.6%	12.9%	3.2%
どちらかといえば男性	40.4%	45.0%	32.5%
平等	29.4%	24.5%	38.3%
どちらかといえば女性	9.6%	6.0%	14.9%
女性の方が非常に優遇	0.9%	0.8%	1.3%
分からない	7.7%	8.0%	7.8%

職場

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
男性の方が非常に優遇	22.2%	29.3%	9.7%
どちらかといえば男性	53.5%	49.4%	59.1%
平等	12.4%	10.4%	16.9%
どちらかといえば女性	4.0%	2.8%	5.8%
女性の方が非常に優遇	0.2%	0.0%	0.6%
分からない	5.6%	5.6%	5.8%

学校教育の場

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
男性の方が非常に優遇	2.6%	4.0%	0.6%
どちらかといえば男性	15.2%	16.1%	11.0%
平等	60.0%	59.4%	64.3%
どちらかといえば女性	2.1%	1.6%	3.2%
女性の方が非常に優遇	0.9%	1.2%	0.0%
分からない	16.4%	14.9%	17.5%

政治の場

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
男性の方が非常に優遇	37.6%	43.8%	26.0%
どちらかといえば男性	41.6%	41.8%	41.6%
平等	11.9%	7.6%	20.1%
どちらかといえば女性	0.2%	0.0%	0.6%
女性の方が非常に優遇	0.9%	0.4%	1.3%
分からない	5.4%	4.0%	7.8%

地域活動の場

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
男性の方が非常に優遇	6.1%	8.4%	2.6%
どちらかといえば男性	31.8%	34.9%	25.3%
平等	37.4%	34.5%	42.9%
どちらかといえば女性	7.5%	6.0%	8.4%
女性の方が非常に優遇	1.2%	0.8%	1.9%
分からない	13.8%	12.9%	16.2%

法律や制度の上

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
男性の方が非常に優遇	10.0%	13.7%	3.2%
どちらかといえば男性	35.5%	38.6%	29.9%
平等	34.1%	29.3%	43.5%
どちらかといえば女性	6.1%	4.4%	9.7%
女性の方が非常に優遇	0.7%	0.0%	1.9%
分からない	11.2%	11.6%	9.1%

社会通念・慣習・しきたりなど

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
男性の方が非常に優遇	23.4%	28.1%	16.2%
どちらかといえば男性	53.3%	51.8%	57.1%
平等	11.9%	8.8%	14.3%
どちらかといえば女性	1.9%	1.2%	3.2%
女性の方が非常に優遇	0.2%	0.0%	0.6%
分からない	7.2%	8.0%	5.8%

社会全体

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
男性の方が非常に優遇	15.7%	20.5%	8.4%
どちらかといえば男性	55.8%	53.4%	58.4%
平等	13.6%	12.0%	15.6%
どちらかといえば女性	4.4%	3.6%	6.5%
女性の方が非常に優遇	0.9%	0.0%	2.6%
分からない	7.7%	8.8%	5.8%

各分野で男女平等になっているか聞いたところ、“平等”と答えた人の割合が最も高くなったところは「学校教育の場」で60.0%、次いで「地域活動の場」で37.4%となっています。

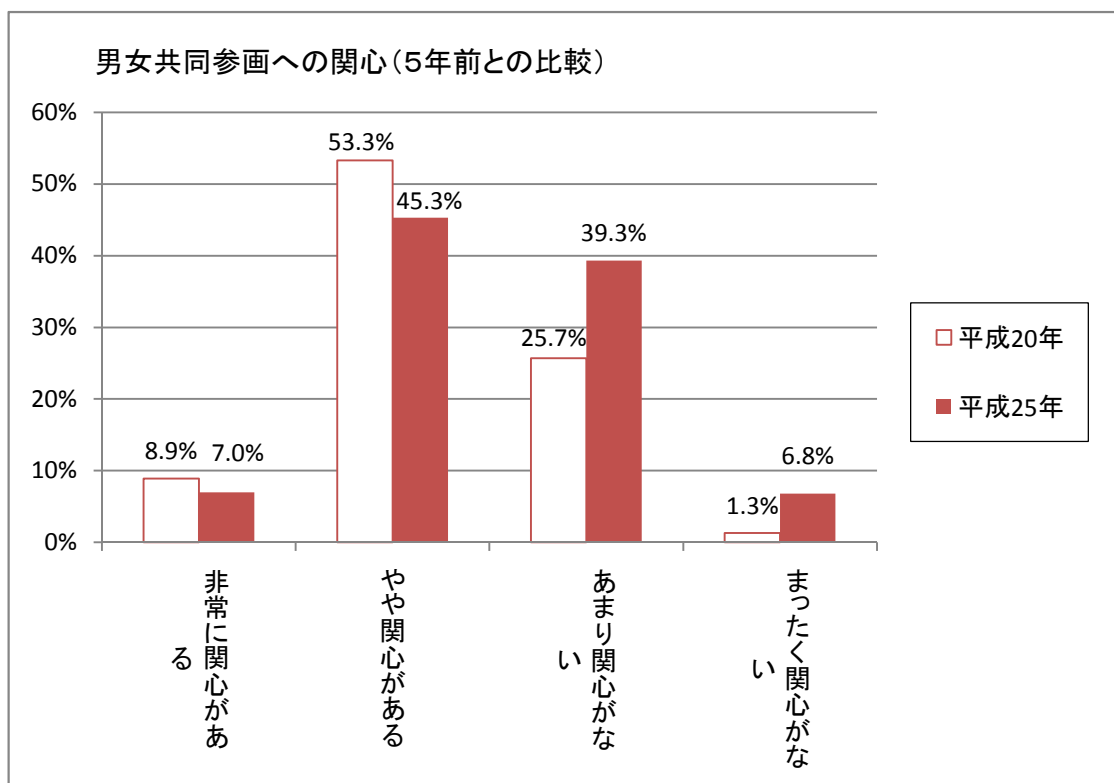
また、“男性の方が非常に優遇されている”は「政治の場」で37.6%、「社会通念・慣習しきたりなど」が23.4%、「職場」が22.2%でした。

“男性の方が非常に優遇されている”と“どちらかといえば男性のほうが優遇されている”を合計した割合は、「政治の場」が最も高く79.2%、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」が76.7%、「職場」が75.7%となっています。

“平等”と回答した人の割合は、どの分野も男性の方が高い割合となっていますが、特に「法律や制度の上」の分野では、男性では43.5%が“平等”と答えているのに、女性は29.3%にとどまり、その差は14.2ポイントあります。同様に「家庭生活」でも男性は38.3%が“平等”と答えていますが、女性では24.5%でその差は13.8ポイントとなっています。

しかし、平成15年、平成20年と今回の調査を比較してみると、各分野の平等感は平成20年より下回っています。特に「学校教育の場」では、平成20年の68.6%から8.6ポイント低い60%、「職場」が7.0ポイント低い12.4%となりました。

問3 あなたは男女共同参画社会のの推進について、どの程度関心がありますか。



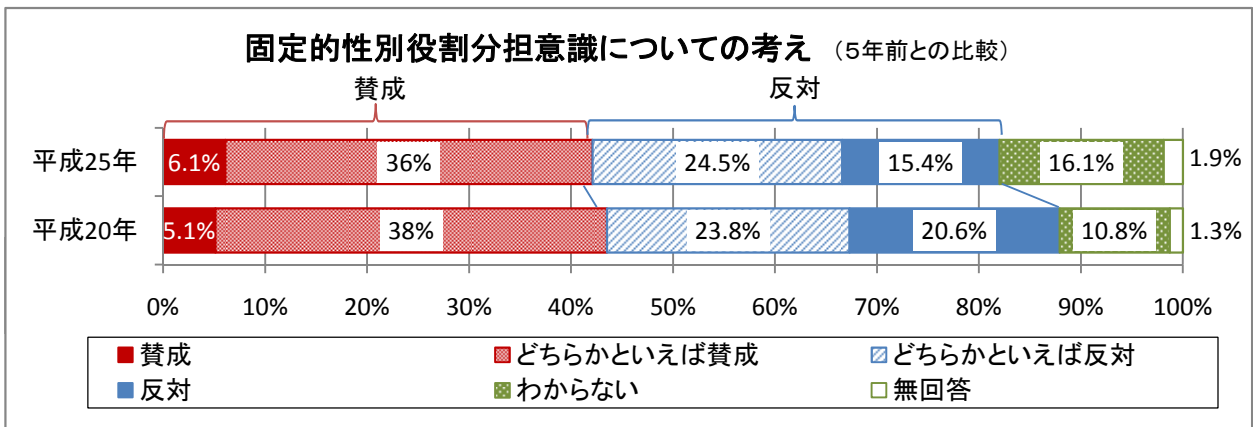
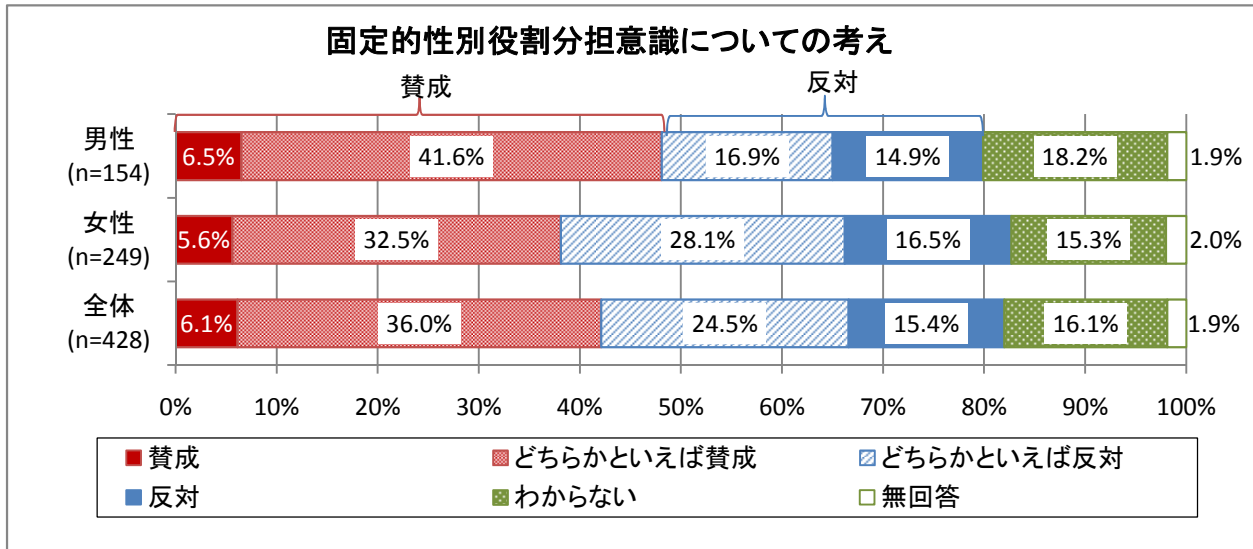
	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
非常に興味がある	7.0%	6.4%	7.8%
やや興味がある	45.3%	47.4%	43.5%
あまり関心がない	39.3%	38.2%	38.3%
まったく関心がない	6.8%	6.4%	8.4%
無回答	1.6%	1.6%	1.9%

男女共同参画への関心は、“非常に興味がある”が7.0%、“やや興味がある”が45.3%、“あまり関心がない”が39.3%、“まったく関心がない”が6.8%となっています。

男女別では、“非常に興味がある”が女性は6.4%、男性は7.8%で、“やや興味がある”を加えると女性では53.8%、男性で51.3%が関心を寄せています。

しかし、平成20年の調査と比較すると、“非常に興味がある”が8.9%から7.0%と1.9ポイント減少し、“やや興味がある”が53.3%から45.3%と8ポイント減少しました。

問4「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方がありますが、あなたはこのことについてどのように思いますか？（○は1つ）



	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
賛成	6.1%	5.6%	6.5%
どちらかといえば賛成	36.0%	32.5%	41.6%
どちらかといえば反対	24.5%	28.1%	16.9%
反対	15.4%	16.5%	14.9%
わからない	16.1%	15.3%	18.2%
無回答	1.9%	2.0%	1.9%

「夫は仕事、妻は家庭」という固定的性別役割分担意識について、「賛成」と回答したのは6.1%、「どちらかといえば賛成」が36.0%、「反対」は15.4%、「どちらかといえば反対」が24.5%となっています。

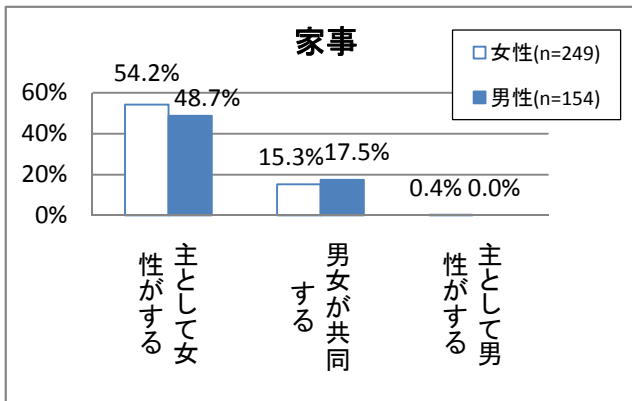
男女別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を加えると、男性では48.1%が、女性では38.1%が賛成となっています。また、「反対」と「どちらかといえば反対」を加えると、女性では44.6%が、男性では31.8%が反対となっています。

この結果から、男性は賛成が反対より16.3ポイント上回り、女性は反対が賛成より6.5ポイント上回っていることから、固定的性別分担意識は男性の方が賛成し、女性の方が反対する傾向にあることが分かります。

平成20年の調査と比較すると、「反対」は44.4%から39.9%と4.5ポイント減少する結果となり、固定的性別役割分担意識の払しょくが進んでいないことが分かりました。

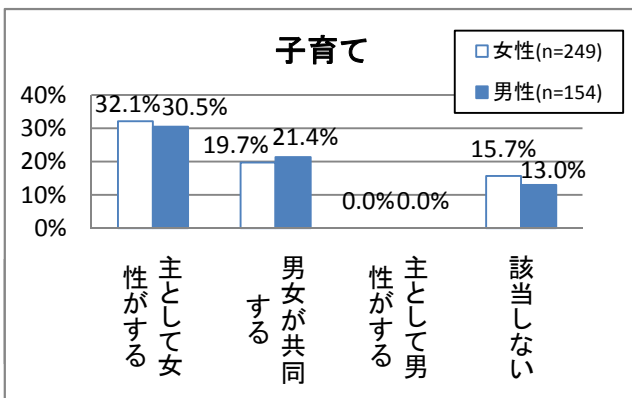
2 家庭生活

問5 あなたの家庭では、次のような分野でどのように分担していますか。（〇は1つ）



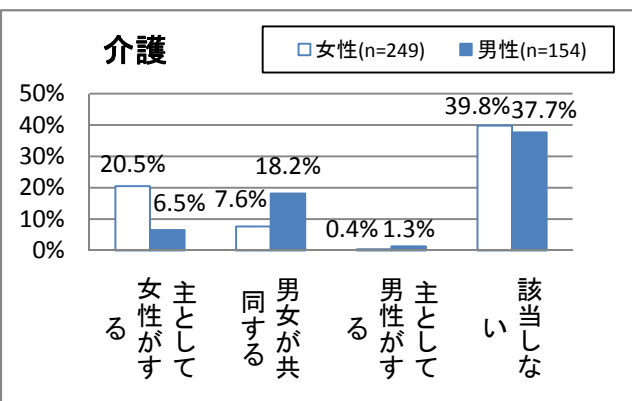
a. 家事

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
主として女性がする	52.3%	54.2%	48.7%
男女が共同する	16.4%	15.3%	17.5%
主として男性がする	0.2%	0.4%	0.0%
該当しない	—	—	—
無回答	31.1%	30.1%	33.8%



b. 子育て

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
主として女性がする	31.8%	32.1%	30.5%
男女が共同する	19.9%	19.7%	21.4%
主として男性がする	0.0%	0.0%	0.0%
該当しない	15.2%	15.7%	13.0%
無回答	33.2%	32.5%	35.1%



c. 介護

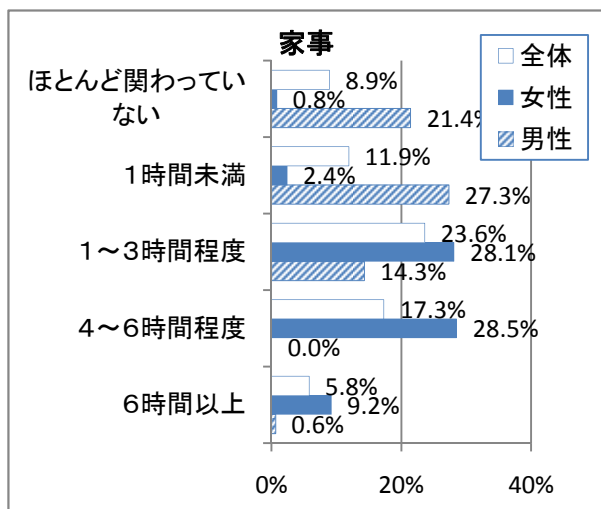
	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
主として女性がする	14.5%	20.5%	6.5%
男女が共同する	12.1%	7.6%	18.2%
主として男性がする	0.7%	0.4%	1.3%
該当しない	39.5%	39.8%	37.7%
無回答	33.2%	31.7%	36.4%

家庭での分担については、「主として女性がする」が「家事」が52.3%で最も多く、次いで「子育て」が31.8%、「介護」が14.5%となりました。「男女が共同する」は、「子育て」が19.9%で最も多く、次いで「家事」が16.4%、「介護」が12.1%でした。

「男女が共同する」を男女別でみると、「家事」が男性17.5%で女性が15.3%、「子育て」が男性21.4%で女性が19.7%、「介護」が男性18.2%で女性が7.6%となり、すべて男性の方が共同して行っている意識が高いことが分かります。

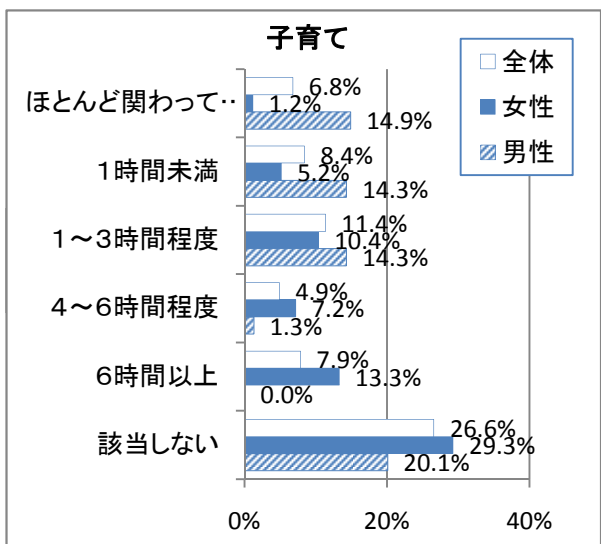
問6 あなたが家事・子育て・介護に関わる時間は1日平均どれくらいですか。
(〇は1つ)

【平日】



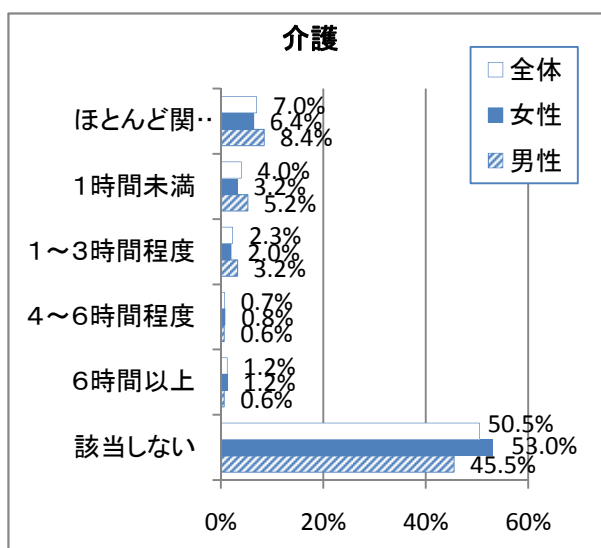
a. 家事

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
ほとんど関わっていない	8.9%	0.8%	21.4%
1時間未満	11.9%	2.4%	27.3%
1～3時間未満	23.6%	28.1%	14.3%
4～6時間未満	17.3%	28.5%	0.0%
6時間以上	5.8%	9.2%	0.6%
該当しない	—	—	—
無回答	32.5%	30.9%	36.4%



b. 子育て

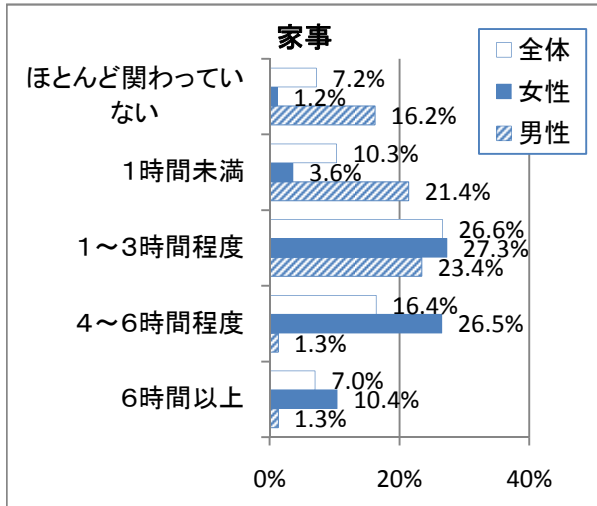
	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
ほとんど関わっていない	6.8%	1.2%	14.9%
1時間未満	8.4%	5.2%	14.3%
1～3時間未満	11.4%	10.4%	14.3%
4～6時間未満	4.9%	7.2%	1.3%
6時間以上	7.9%	13.3%	0.0%
該当しない	26.6%	29.3%	20.1%
無回答	33.9%	33.3%	35.1%



c. 介護

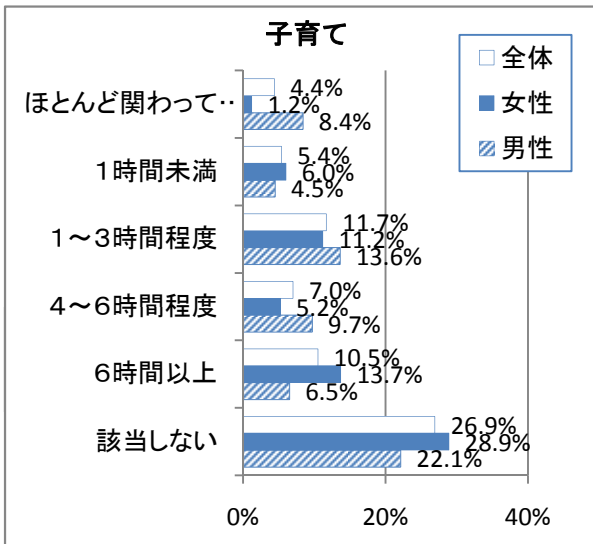
	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
ほとんど関わっていない	7.0%	6.4%	8.4%
1時間未満	4.0%	3.2%	5.2%
1～3時間未満	2.3%	2.0%	3.2%
4～6時間未満	0.7%	0.8%	0.6%
6時間以上	1.2%	1.2%	0.6%
該当しない	50.5%	53.0%	45.5%
無回答	34.3%	33.3%	36.4%

【休日】



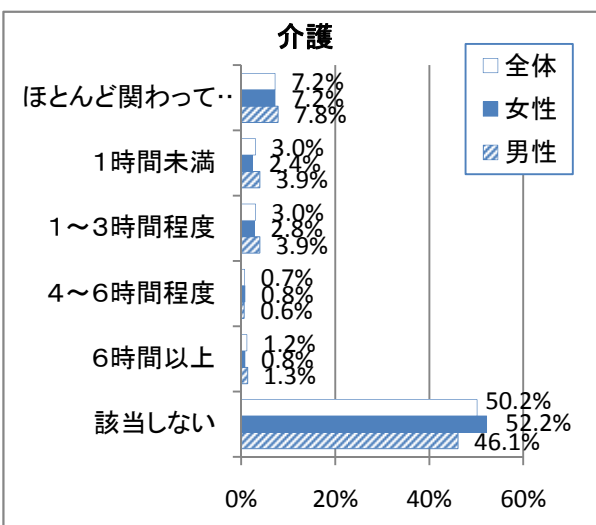
a. 家事

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
ほとんど関わっていない	7.2%	1.2%	16.2%
1時間未満	10.3%	3.6%	21.4%
1~3時間未満	26.6%	27.3%	23.4%
4~6時間未満	16.4%	26.5%	1.3%
6時間以上	7.0%	10.4%	1.3%
該当しない	—	—	—
無回答	32.5%	30.9%	36.4%



b. 子育て

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
ほとんど関わっていない	4.4%	1.2%	8.4%
1時間未満	5.4%	6.0%	4.5%
1~3時間未満	11.7%	11.2%	13.6%
4~6時間未満	7.0%	5.2%	9.7%
6時間以上	10.5%	13.7%	6.5%
該当しない	26.9%	28.9%	22.1%
無回答	34.1%	33.7%	35.1%



c. 介護

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
ほとんど関わっていない	7.2%	7.2%	7.8%
1時間未満	3.0%	2.4%	3.9%
1~3時間未満	3.0%	2.8%	3.9%
4~6時間未満	0.7%	0.8%	0.6%
6時間以上	1.2%	0.8%	1.3%
該当しない	50.2%	52.2%	46.1%
無回答	34.6%	33.7%	36.4%

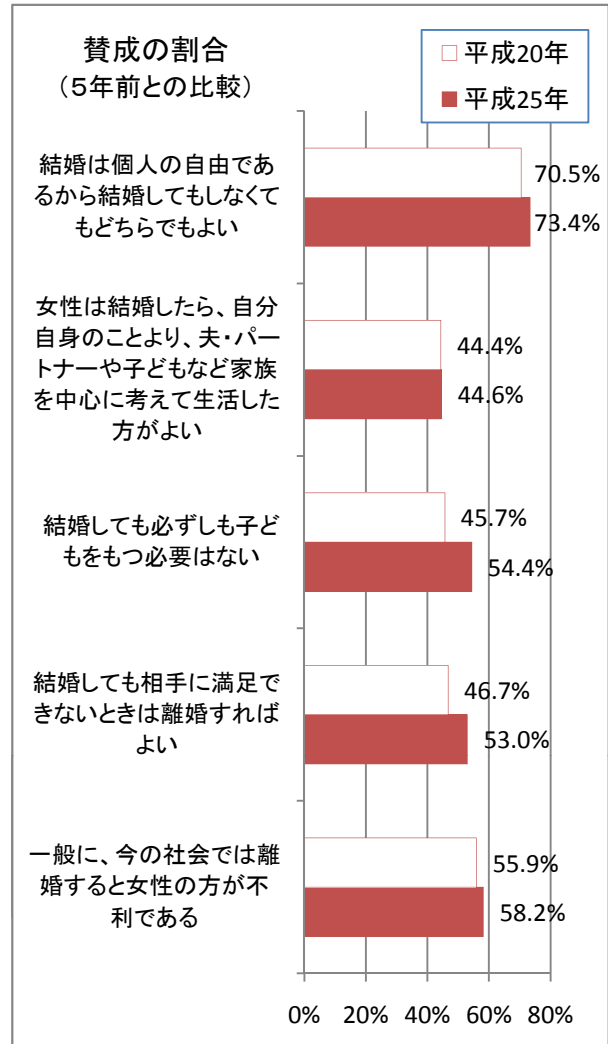
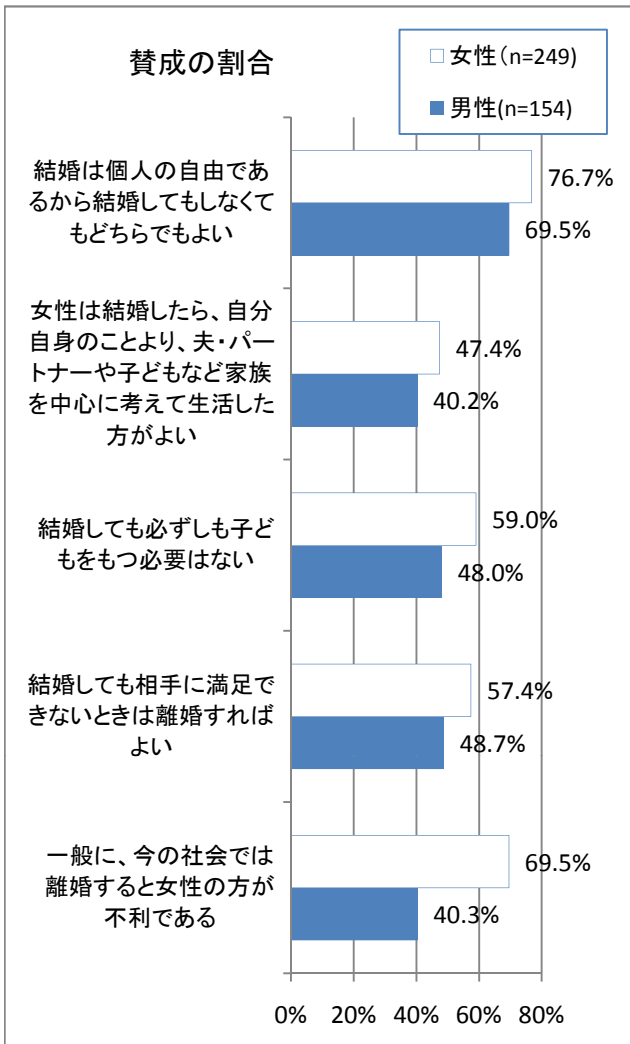
家事・子育て・介護に関わる時間を平日と休日に分けて聞いたところ、平日の“家事”は「1～3時間程度」が23.6%と最も多く、次いで「4～6時間程度」が17.3%となっています。平日の“子育て”も「1～3時間程度」が11.4%と最も多く、次いで「1時間未満」が8.4%でした。平日の“介護”は「ほとんど関わっていない」が7%と最も多く、次いで「1時間未満」が4%でした。

男女別でみると“家事”で最も多いのは女性が「4～6時間程度」で28.5%、男性が「1時間未満」で27.3%、“子育て”で最も多いのは女性が「6時間以上」で13.3%、男性が「ほとんど関わっていない」で14.9%、“介護”で最も多いのは男女ともに「ほとんど関わっていない」でした。

一方、休日の“家事”を男女別にみると、最も多いのは男女ともに「1～3時間程度」で女性が27.3%、男性が23.4%でした。“子育て”で最も多いのは女性が「6時間以上」で13.7%、男性が「1～3時間程度」で13.6%、“介護”で最も多いのは男女ともに「ほとんど関わっていない」でした。

このことから、“家事”は休日になると男性が関わる時間が増えることで、女性が関わる時間が減少していますが、“子育て”は休日になると男性が関わる時間は増えているものの、女性が関わる時間は平日と変わらないことが分かりました。

問7 結婚、家庭、離婚についてあなたのご意見をお伺いします。次の中からあなたの考えに最も近いところに○をつけてください。(○は1つ)



a. 結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
そう思う	46.3%	47.4%	48.1%
どちらかといえばそう思う	27.1%	29.3%	21.4%
どちらかといえばそう思わない	10.7%	10.0%	11.0%
そう思わない	9.8%	6.8%	14.9%
わからない	1.2%	1.2%	1.3%
無回答	4.9%	5.2%	3.2%

b. 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫・パートナーや子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
そう思う	8.9%	7.6%	9.7%
どちらかといえばそう思う	35.7%	39.8%	30.5%
どちらかといえばそう思わない	20.8%	18.1%	25.3%
そう思わない	23.6%	22.9%	25.3%
わからない	5.6%	6.4%	5.2%
無回答	5.4%	5.2%	3.9%

c. 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
そう思う	33.6%	34.5%	34.4%
どちらかといえばそう思う	20.8%	24.5%	13.6%
どちらかといえばそう思わない	19.6%	14.9%	26.0%
そう思わない	15.9%	16.1%	16.9%
わからない	4.9%	4.8%	5.2%
無回答	5.1%	5.2%	3.9%

d. 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
そう思う	22.4%	22.5%	24.0%
どちらかといえばそう思う	30.6%	34.9%	24.7%
どちらかといえばそう思わない	18.2%	14.9%	25.3%
そう思わない	14.0%	12.9%	14.3%
わからない	10.0%	10.4%	7.8%
無回答	4.7%	4.4%	3.9%

e. 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である

	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
そう思う	30.6%	39.4%	18.2%
どちらかといえばそう思う	27.6%	30.1%	22.1%
どちらかといえばそう思わない	11.0%	7.2%	17.5%
そう思わない	15.2%	8.0%	26.6%
わからない	10.7%	10.4%	11.7%
無回答	4.9%	4.8%	3.9%

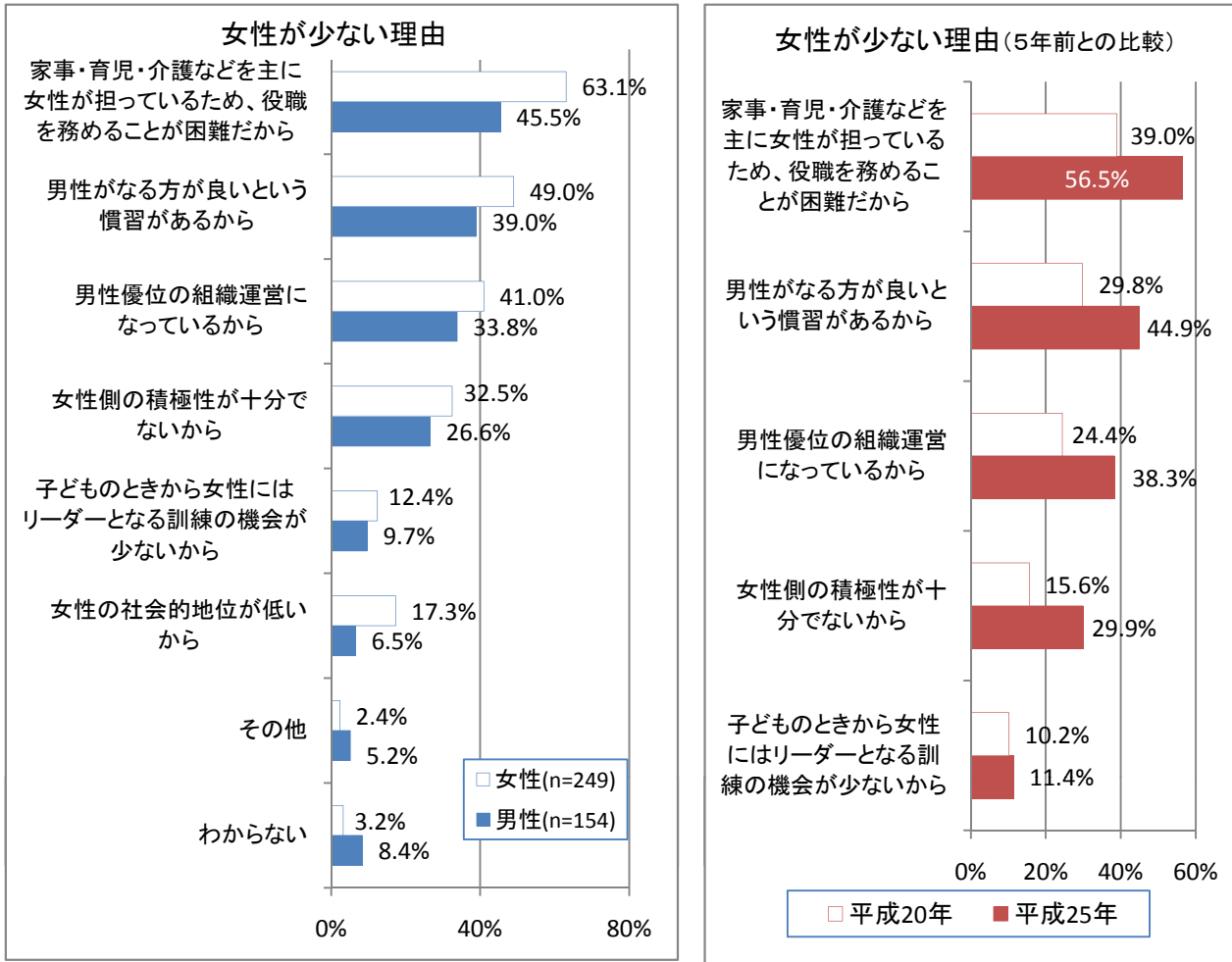
結婚観や家庭観について聞いたところ、“結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい”という考えに「そう思う」と答えた人が46.3%と最も多く、次いで“結婚しても必ずしも子どもを持つ必要がない”が33.6%、“一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である”が30.6%と続きます。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を足した賛成の割合を男女別で見ると、総じて女性の方がポイントが高くなっており、中でも“一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利になる”は女性の69.5%に対し、男性は40.3%が賛成で29.2ポイントの差がありました。

平成20年の調査と比較すると、すべての項目において賛成の割合が5年前より上回っており、中でも“結婚しても必ずしも子どもを持つ必要がない”が45.7%から54.4%と8.7ポイント上昇し、“結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい”が46.7%から53%と6.3ポイント上昇しました。

3 地域活動

問8 町会長やPTA会長など「～長」という役職に女性が少ない傾向にあります。あなたはどのような理由からだと思いますか（〇は当てはまるものすべて）



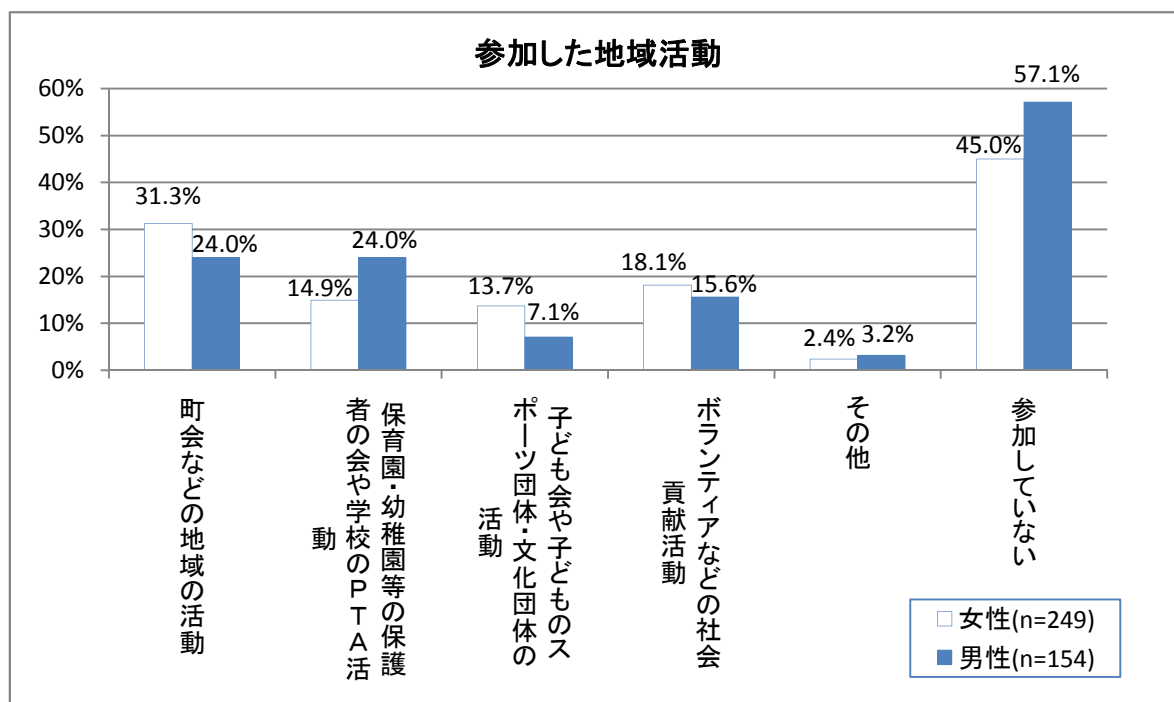
	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
家事・育児・介護などを主に女性が担っているため、役職を務めることが困難だから	56.5%	63.1%	45.5%
男性がなる方が良いという慣習があるから	44.9%	49.0%	39.0%
男性優位の組織運営になっているから	38.3%	41.0%	33.8%
女性側の積極性が十分でないから	29.9%	32.5%	26.6%
子どものときから女性にはリーダーとなる訓練の機会が少ないから	11.4%	12.4%	9.7%
女性の社会的地位が低いから	13.3%	17.3%	6.5%
その他	3.7%	2.4%	5.2%
分からない	5.4%	3.2%	8.4%

会長職に女性が少ない理由について、最も多い回答は「家事・育児・介護などを主に女性が担っているため、役職を務めることが困難だから」で56.5%、次いで「男性がなる方が良いという慣習があるから」で44.9%、「男性優位の組織運営になっているから」が38.3%となっています。

男女別に見ても、順位は変わりませんが、全体的に女性の方が男性よりもポイントが高くなっていることが分かります。

平成20年の調査と比較すると、総じて5年前より上回っており、中でも「育児・家事・介護などを主に女性が担っているため、役職を務めることが困難だから」が39%から56.5%と17.5ポイント上昇しました。

問9 この1年間のうち、あなたが参加した地域活動は何ですか。
(〇は当てはまるものすべて)



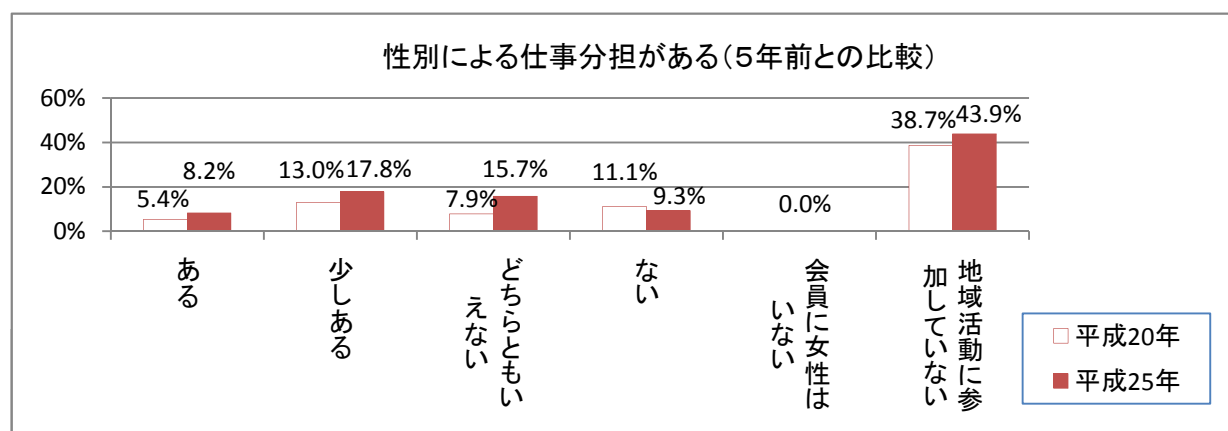
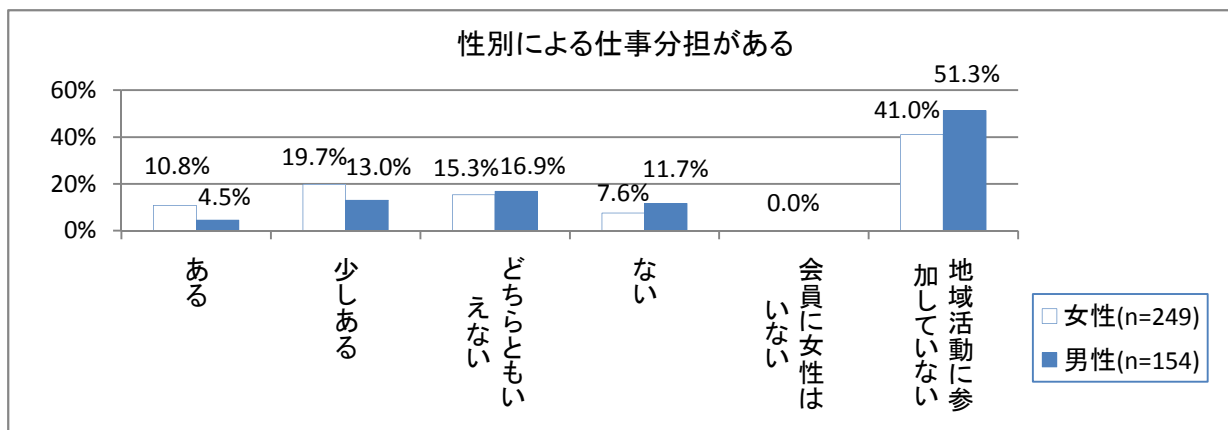
	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
町会などの地域の活動	29.4%	31.3%	24.0%
保育園・幼稚園等の保護者の会や学校のPTA活動	11.7%	14.9%	24.0%
子ども会や子どものスポーツ団体・文化団体の活動	11.0%	13.7%	7.1%
ボランティアなどの社会貢献活動	16.8%	18.1%	15.6%
その他	2.6%	2.4%	3.2%
参加していない	49.1%	45.0%	57.1%

地域活動については、「参加していない」が49.1%と最も多く、次いで「町会などの地域の活動」が29.4%、「ボランティアなどの社会貢献活動」が16.8%となりました。

参加したことの中で男女別に見ると、女性で最も多いのは「町会などの地域の活動」で31.3%、次に「ボランティアなどの社会貢献活動」が18.1%となりましたが、男性は「町会などの地域の活動」と「保育園・幼稚園等の保護者の会や学校のPTA活動」が24%の同率で並びました。

また、唯一女性よりも男性の方がポイントが高かったのは、「保育園・幼稚園等の保護者の会や学校のPTA活動」でした。

問10 あなたが参加している町会などの地域活動団体では「男性は中心的な仕事、女性は庶務や雑用」など性別によって仕事の分担がありますか。(〇は1つ)



	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
ある	8.2%	10.8%	4.5%
少しある	17.8%	19.7%	13.0%
どちらともいえない	15.7%	15.3%	16.9%
ない	9.3%	7.6%	11.7%
会員に女性はいない	0.0%	0.0%	0.0%
地域活動に参加していない	43.9%	41.0%	51.3%
無回答	5.1%	5.6%	2.6%

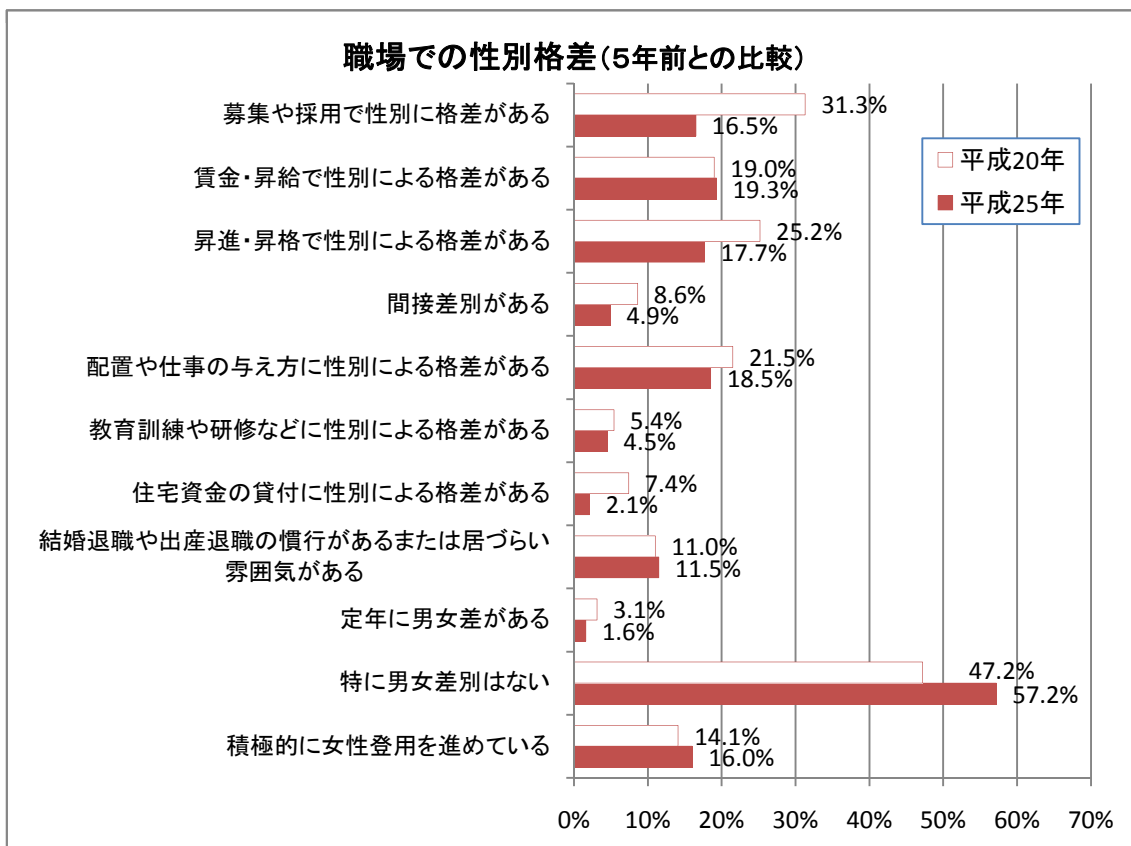
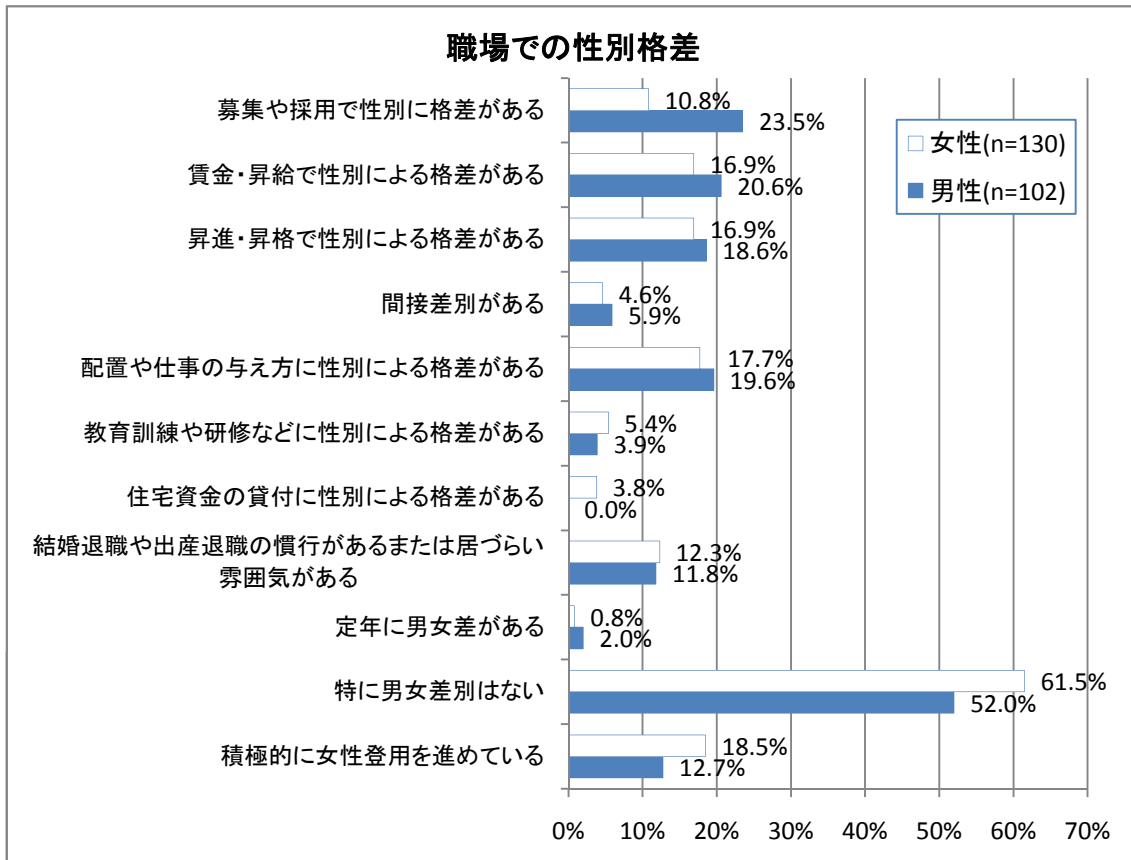
地域活動団体で性別による仕事分担があるか聞いたところ、「地域活動に参加していない」が43.9%と最も多く、次いで「少しある」が17.8%、「どちらともいえない」が15.7%となりました。

参加している人の中で、男女別で最も多かったのは、女性が「少しある」で19.7%、男性が「どちらともいえない」で16.9%でした。

平成20年の調査と比較すると、「ある」と「少しある」を足した肯定派が18.4%から26%と7.6ポイント上昇していることから、性別による仕事分担は今でも根強く残っていることが分かります。

4 職場

問11 あなたの職場では、次にあげるようなことがありますか。
(○は当てはまるものすべて)



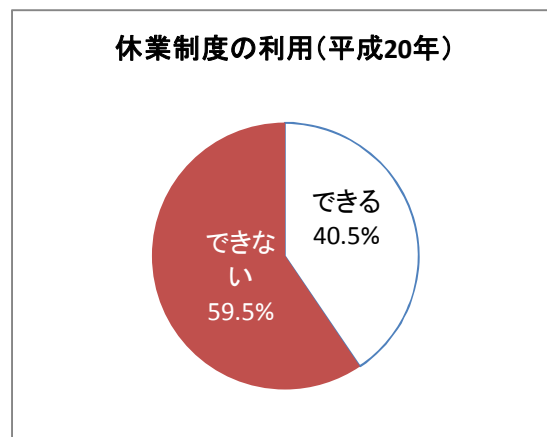
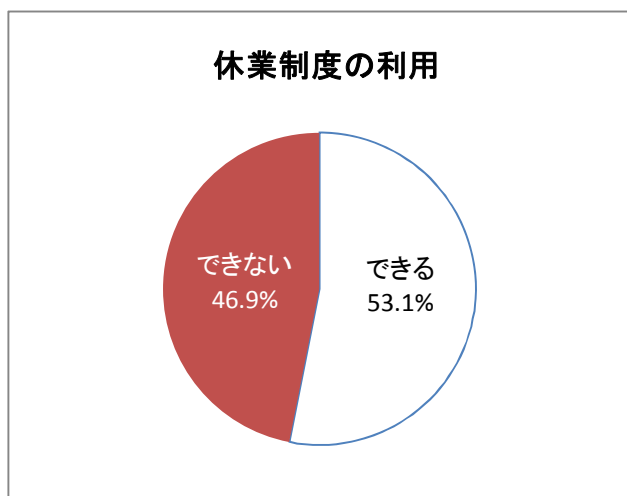
	全体 (n=243)	女性 (n=130)	男性 (n=102)
募集や採用で性別に格差がある	16.5%	10.8%	23.5%
賃金・昇給で性別による格差がある	19.3%	16.9%	20.6%
昇進・昇格で性別による格差がある	17.7%	16.9%	18.6%
間接差別がある	4.9%	4.6%	5.9%
配置や仕事の与え方に性別による格差がある (庶務は女性、企画は男性)	18.5%	17.7%	19.6%
教育訓練や研修などに性別による格差がある	4.5%	5.4%	3.9%
住宅資金の貸付に性別による格差がある	2.1%	3.8%	0.0%
結婚退職や出産退職の慣行があるまたは居 づらい雰囲気がある	11.5%	12.3%	11.8%
定年に男女差がある	1.6%	0.8%	2.0%
特に男女差別はない	57.2%	61.5%	52.0%
積極的に女性登用を進めている	16.0%	18.5%	12.7%

職場での男女格差について聞いたところ、「特に男女差別はない」が最も多く57.2%、次いで「賃金・昇給で性別による格差がある」が19.3%、「配置や仕事の与え方に性別による格差がある(庶務は女性、企画は男性)」が18.5%でした。

男女別に見ると、最も多かったのは男女ともに「特に男女差別はない」で、女性は61.5%、男性は52.0%、次いで多かったのは、女性は「配置や仕事の与え方に性別による格差がある(庶務は女性、企画は男性)」が17.7%で、男性は「募集や採用で性別に格差がある」が23.5%でした。

平成20年の調査と比較すると、「特に男女差別はない」が47.2%から57.2%と10ポイント上昇し、「募集や採用で性別に格差がある」が31.3%から16.5%と、14.8ポイント減少していることから、職場での男女格差は減りつつあることが分かります。

問12 「現在あなたに、育児や介護が必要な家族がいた場合、育児や介護のための法律で定められた休業制度を利用できますか。（〇は1つ）



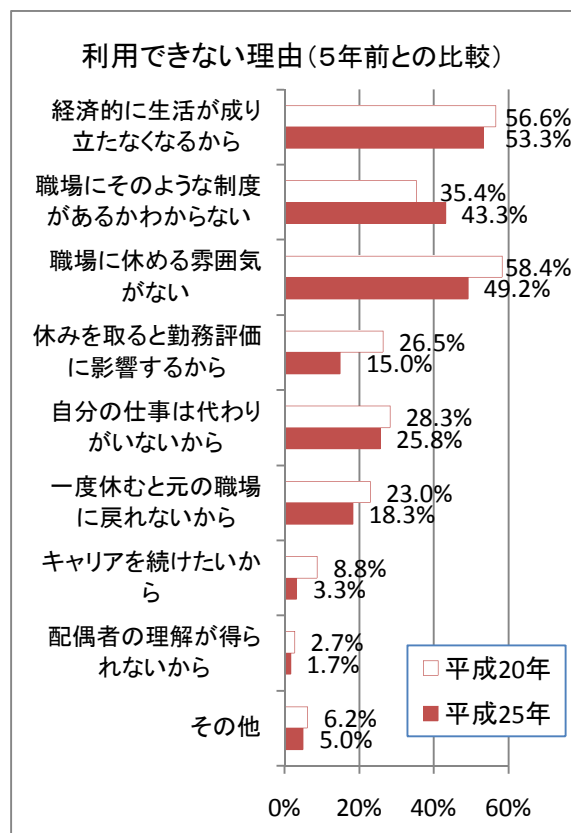
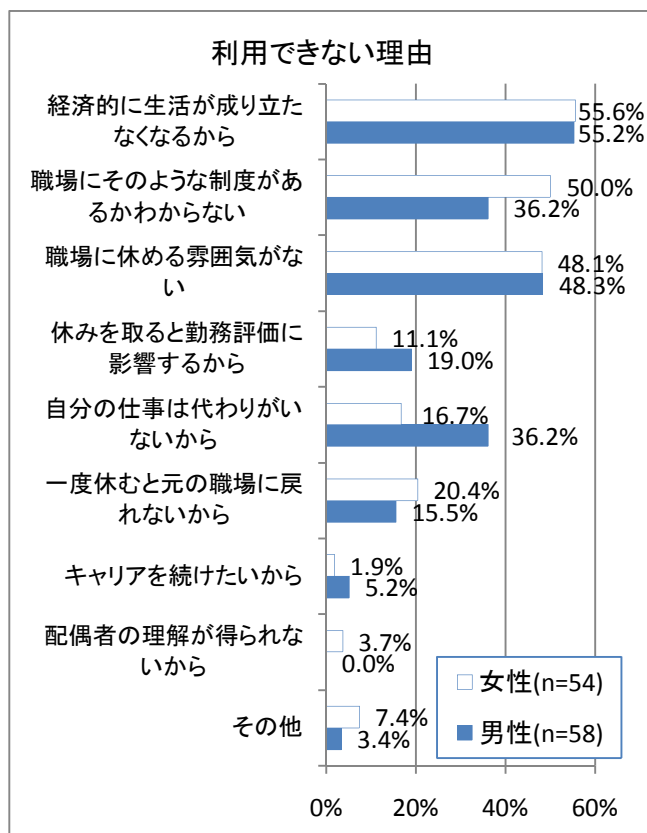
	全体 (n=256)	女性 (n=130)	男性 (n=115)
できる	53.1%	58.5%	49.6%
できない	46.9%	41.5%	50.4%

現在仕事をしている方に、育児休業や介護休業制度が利用できるか聞いたところ、全体で53.1%が「できる」、46.9%が「できない」との回答になりました。「利用できる・できない」を男女別で見ると、女性は「できる」と答えた人が多く58.5%、男性は「できない」と答えた人が多く50.4%となりました。

平成20年の調査と比較すると「できる」と答えた人が40.5%から53.1%と12.6ポイント上がりました。

問12で「2. できない」と答え方

問12-1 長期の休業制度を利用することができないのは、どのような理由からでしょうか。（〇は当てはまるものすべて）



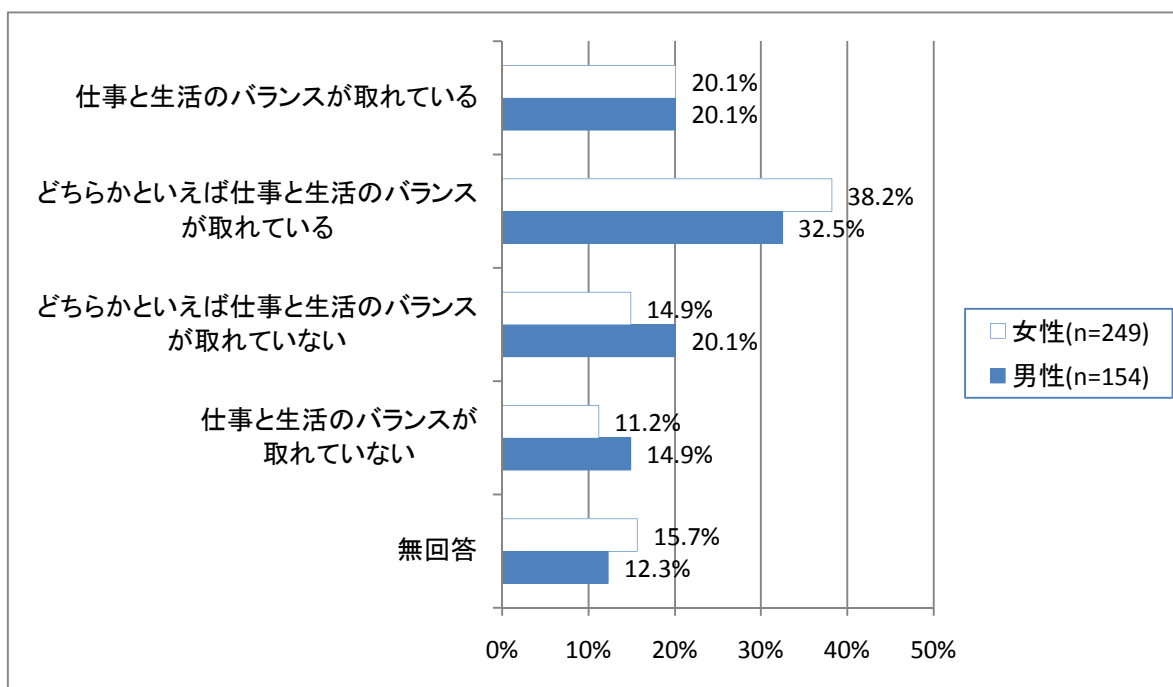
	全体 (n=120)	女性 (n=54)	男性 (n=58)
経済的に生活が成り立たなくなるから	53.3%	55.6%	55.2%
職場にそのような制度があるかわからない	43.3%	50.0%	36.2%
職場に休める雰囲気がない	49.2%	48.1%	48.3%
休みを取ると勤務評価に影響するから	15.0%	11.1%	19.0%
自分の仕事は代わりがないから	25.8%	16.7%	36.2%
一度休むと元の職場に戻れないから	18.3%	20.4%	15.5%
キャリアを続けたいから	3.3%	1.9%	5.2%
配偶者の理解が得られないから	1.7%	3.7%	0.0%
その他	5.0%	7.4%	3.4%

前問で「利用できない」と回答した人にその理由を尋ねると、「経済的に生活が成り立たなくなるから」が最も多く53.3%、次いで「職場に休める雰囲気がない」が49.2%、「職場にそのような制度があるかわからない」が43.3%となっています。

男女別で見ても、男女ともに「経済的に生活が成り立たなくなるから」が女性で55.6%、男性で55.2%と最も高くなりました。また男女差の大きな回答は「職場にそのような制度があるかわからない」が女性が50%に対して、男性は36.2%と13.8ポイント低く、逆に「自分の仕事は代わりがないから」が女性が16.7%に対して、男性は36.2%と19.5%高い結果となりました。

平成20年の調査と比較すると、全般的に前回よりポイントが低く、最も低下したのは「休みを取ると勤務評価に影響するから」で26.5%から15%と11.5ポイント低くなりました。そうしたなか、唯一増加したのは「職場にそのような制度があるかわからない」で35.4%から43.3%と、7.9ポイント増加しました。

問13 あなたは、仕事と生活（家庭生活・地域活動）の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現できていますか。（〇は1つ）



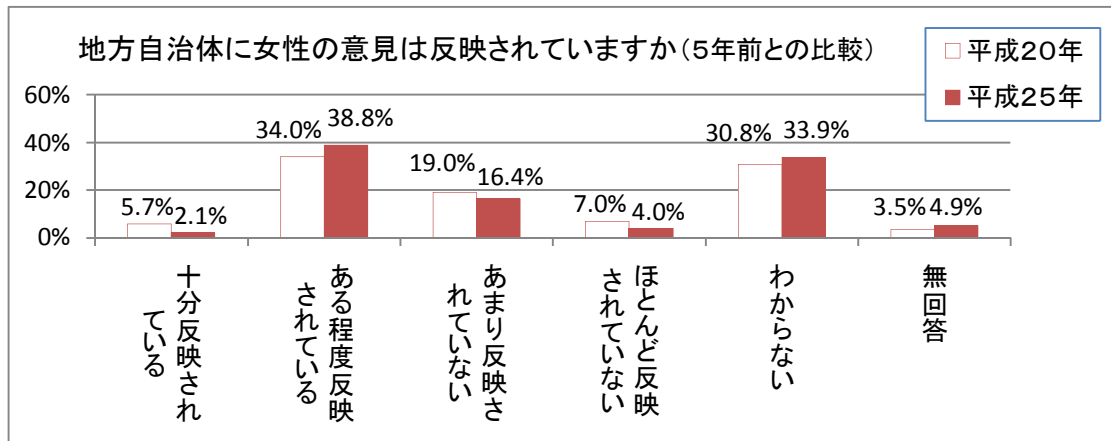
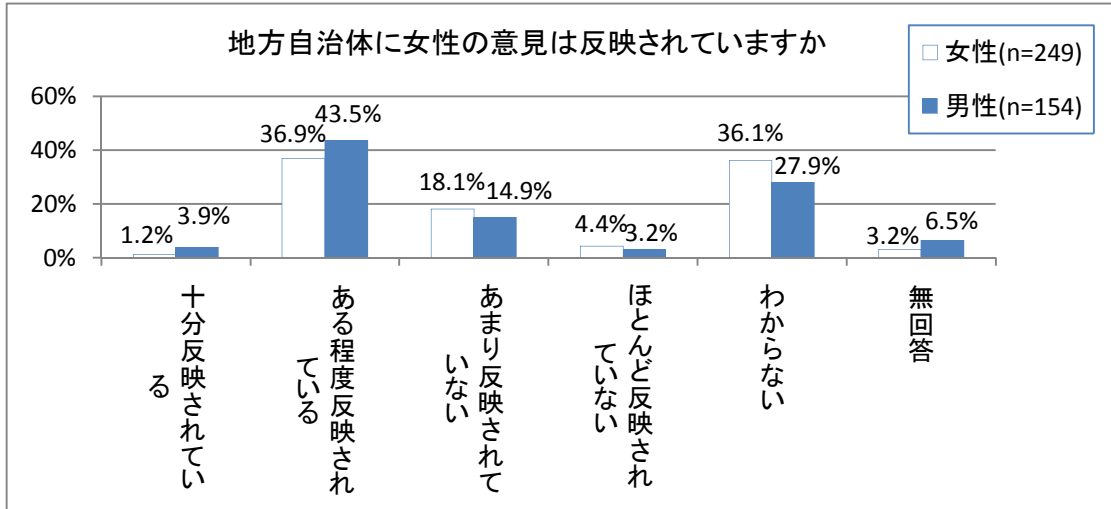
	全体 (n=287)	女性 (n=164)	男性 (n=120)
仕事と生活のバランスが取れている	19.6%	20.1%	20.1%
どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れている	36.9%	38.2%	32.5%
どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れていない	15.9%	14.9%	20.1%
仕事と生活のバランスが取れていない	13.1%	11.2%	14.9%
無回答	14.5%	15.7%	12.3%

ワーク・ライフ・バランスの実現について聞いたところ、「どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れている」が最も多く36.9%で、「仕事と生活のバランスが取れている」と答えた19.6%を足すと、56.5%が「バランスが取れている」と回答しました。

男女別で見ても、「どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れている」と答えた人が女性で38.2%、男性で32.5%と最も多かったのですが、男性は「仕事と生活のバランスが取れている」と「どちらかといえば仕事と生活のバランスが取れていない」という人が20.1%と同率になりました。

5 社会参加

問14 あなたは、地方自治体（県や市）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。（〇は1つ）



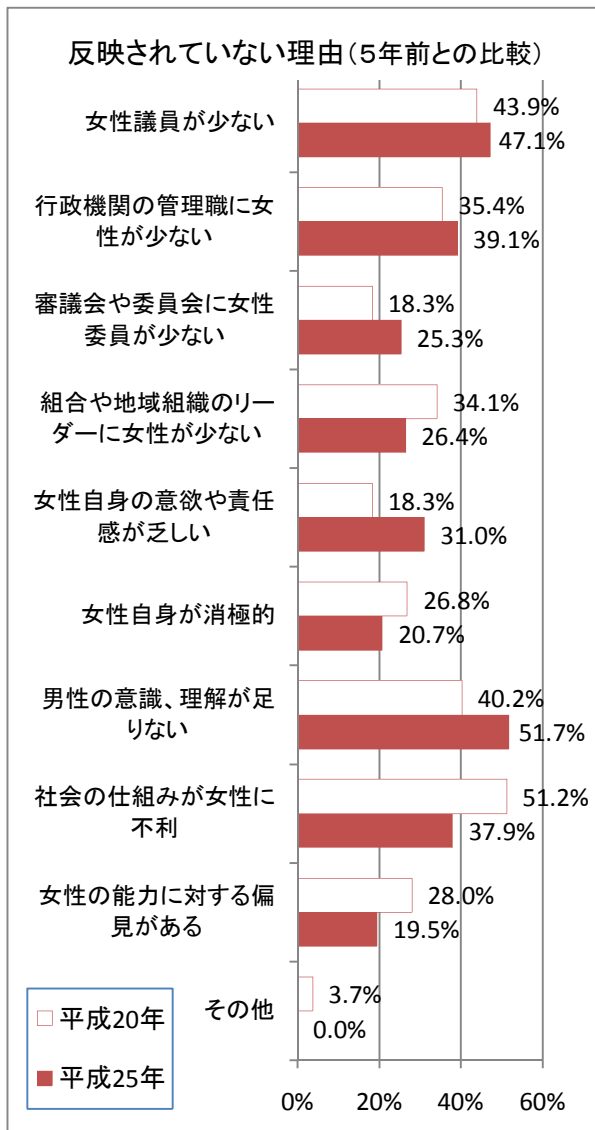
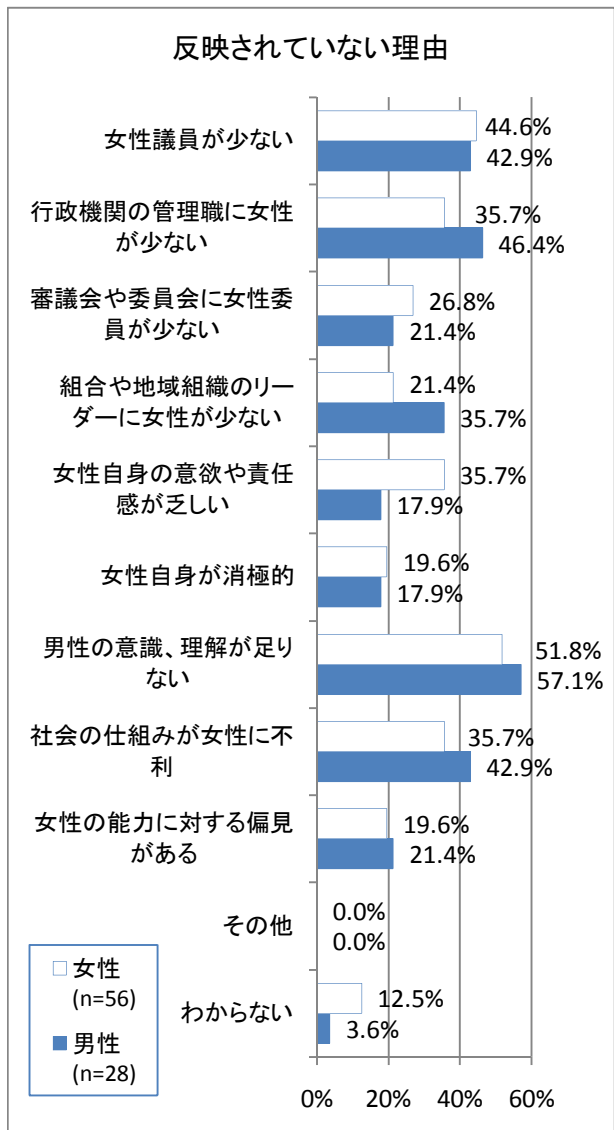
	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
十分反映されている	2.1%	1.2%	3.9%
ある程度反映されている	38.8%	36.9%	43.5%
あまり反映されていない	16.4%	18.1%	14.9%
ほとんど反映されていない	4.0%	4.4%	3.2%
わからない	33.9%	36.1%	27.9%
無回答	4.9%	3.2%	6.5%

地方自治体の施策に女性の意見などが反映されているかについて、「ある程度反映されている」が38.8%で最も多く、次いで「わからない」が33.9%、「あまり反映されていない」が16.4%となっています。

男女別でも「ある程度反映されている」が女性で36.9%、男性で43.5%と最も高くなっています。平成20年の調査と比較すると、「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を足した肯定派が平成20年の39.7%から40.9%と1.2ポイント上昇し、わずかながらですが、反映されてきていると思う人が増加していることが分かりました。

問14で「3. あまり反映されていない」または「4. ほとんど反映されていない」と答え

問14-1 反映されていない理由は何だと思えますか。(〇は3つまで)



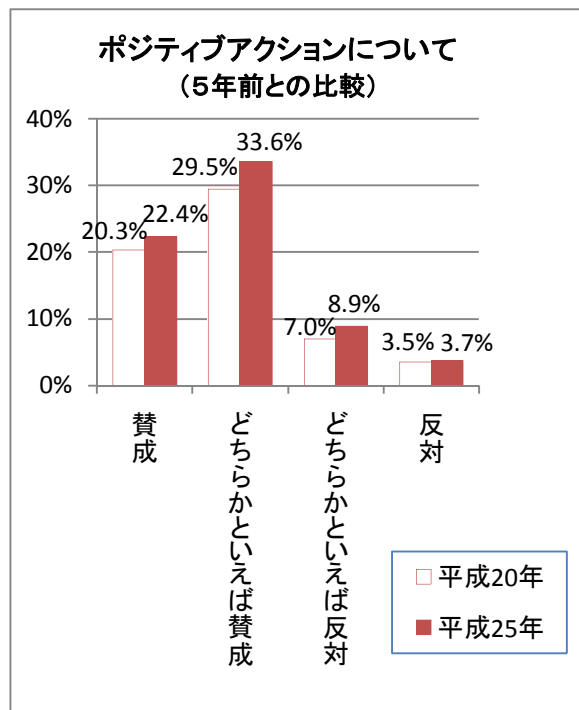
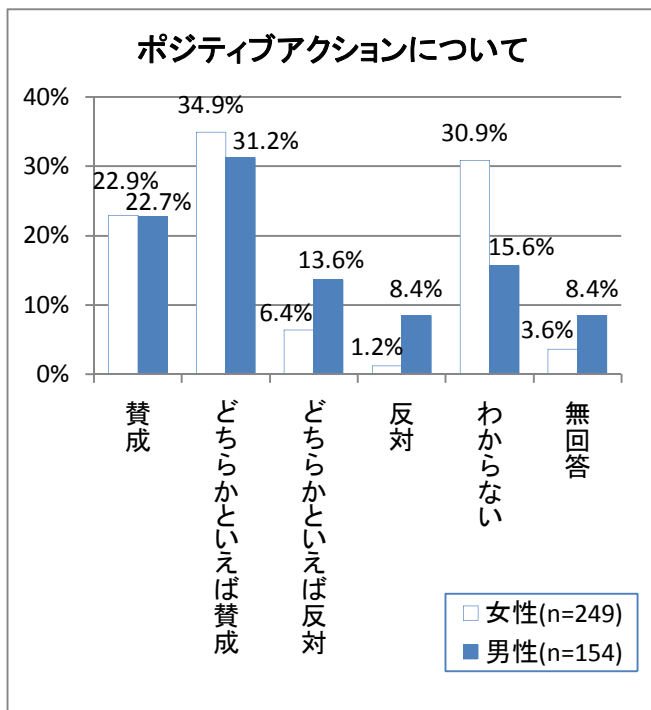
	全体 (n=87)	女性 (n=56)	男性 (n=28)
女性議員が少ない	47.1%	44.6%	42.9%
行政機関の管理職に女性が少ない	39.1%	35.7%	46.4%
審議会や委員会に女性委員が少ない	25.3%	26.8%	21.4%
組合や地域組織のリーダーに女性が少ない	26.4%	21.4%	35.7%
女性自身の意欲や責任感が乏しい	31.0%	35.7%	17.9%
女性自身が消極的	20.7%	19.6%	17.9%
男性の意識、理解が足りない	51.7%	51.8%	57.1%
社会の仕組みが女性に不利	37.9%	35.7%	42.9%
女性の能力に対する偏見がある	19.5%	19.6%	21.4%
その他	0.0%	0.0%	0.0%
わからない	11.5%	12.5%	3.6%

前問で「あまり反映されていない」、「ほとんど反映されていない」と答えた人に、その理由を尋ねると、「男性の意識、理解が足りない」が最も多く51.7%、次いで「女性議員が少ない」が47.1%、「行政機関の管理職に女性が少ない」が39.1%となっています。

男女別に見ても、「男性の意識、理解が足りない」が女性で51.8%、男性で57.1%と最も高く、男女差があったのは、「女性自身の意欲や責任感が乏しい」で、女性が35.7%に対し男性は17.9%と、17.8ポイントの開きがありました。

平成20年の調査と比較すると、「女性自身の意欲や責任感が乏しい」が18.3%から31%と12.7ポイント上昇し、「男性の意識、理解が足りない」も40.2%から51.7%と11.5%上昇したのに対し、「社会の仕組みが女性に不利」が51.2%から37.9%と13.3%低下したことから、社会の仕組みは変わったものの、男女問わず意識や意欲が足りないと感じていることが分かりました。

問15 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして男女の実質的な機会の均等を確保すべきである」（＝ポジティブアクション）という考え方があります。この考え方についてどのように思いますか。（〇は1つ）



	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
賛成	22.4%	22.9%	22.7%
どちらかといえば賛成	33.6%	34.9%	31.2%
どちらかといえば反対	8.9%	6.4%	13.6%
反対	3.7%	1.2%	8.4%
わからない	25.2%	30.9%	15.6%
無回答	6.1%	3.6%	8.4%

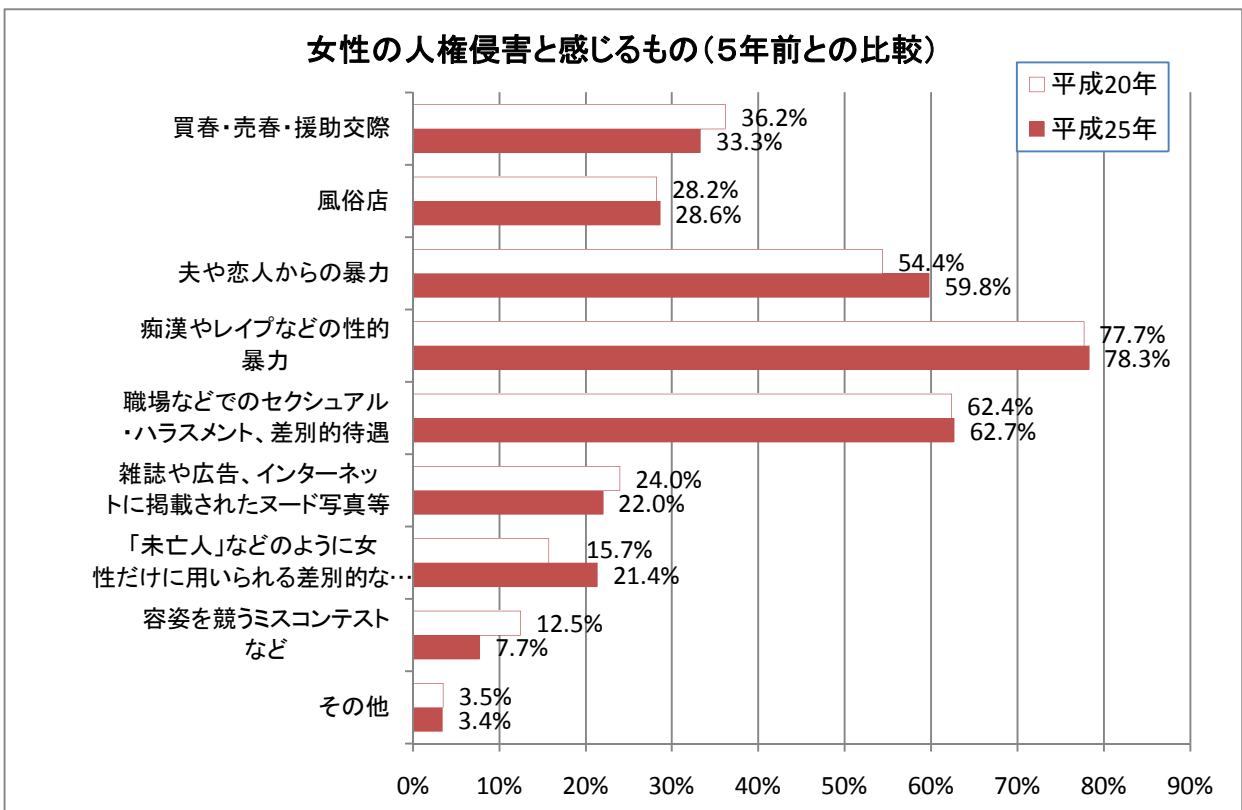
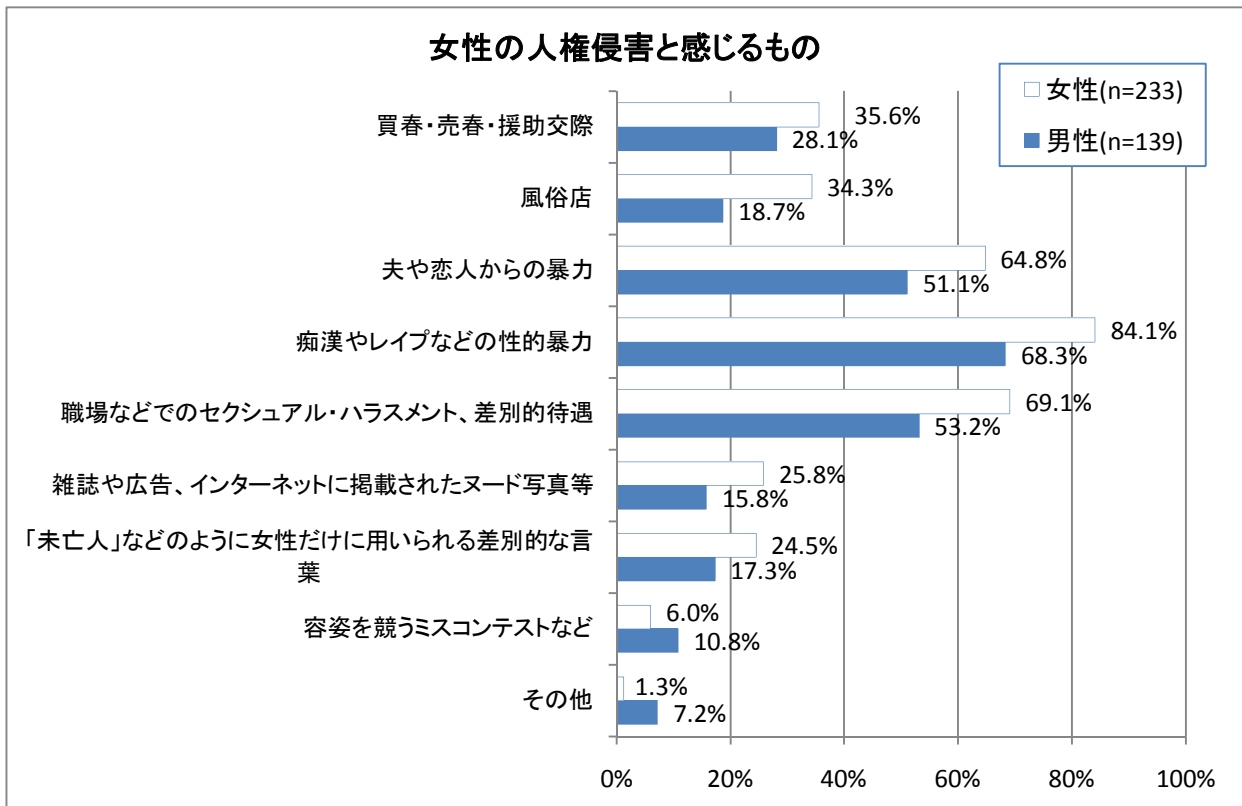
男女共同参画を進めるために、女性のあまりいない分野で積極的に女性を登用するポジティブアクション(積極的格差是正措置)について、「どちらかといえば賛成」が最も多く33.6%で、「賛成」の22.4%を加えると56.0%が肯定しています。

男女別で見ても、同じ傾向でしたが、「どちらかといえば反対」と「反対」を足した割合は、女性は7.6%に対し男性は22.0%と14.4ポイント開きがありました。

平成20年の調査と比較すると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を足した割合は、49.8%から56.0%と6.2ポイント増加し、肯定する人が増えていることが分かります。

6 女性の人権

問16 あなたが、「女性の人権が侵害されている」と感じることは何ですか。
(〇は当てはまるものすべて)



	全体 (n=378)	女性 (n=233)	男性 (n=139)
買春・売春・援助交際	33.3%	35.6%	28.1%
風俗店	28.6%	34.3%	18.7%
夫や恋人からの暴力	59.8%	64.8%	51.1%
痴漢やレイプなどの性的暴力	78.3%	84.1%	68.3%
職場などでのセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇	62.7%	69.1%	53.2%
雑誌や広告、インターネットに掲載されたヌード写真等	22.0%	25.8%	15.8%
「未亡人」などのように女性だけに用いられる差別的な言葉	21.4%	24.5%	17.3%
容姿を競うミスコンテストなど	7.7%	6.0%	10.8%
その他	3.4%	1.3%	7.2%

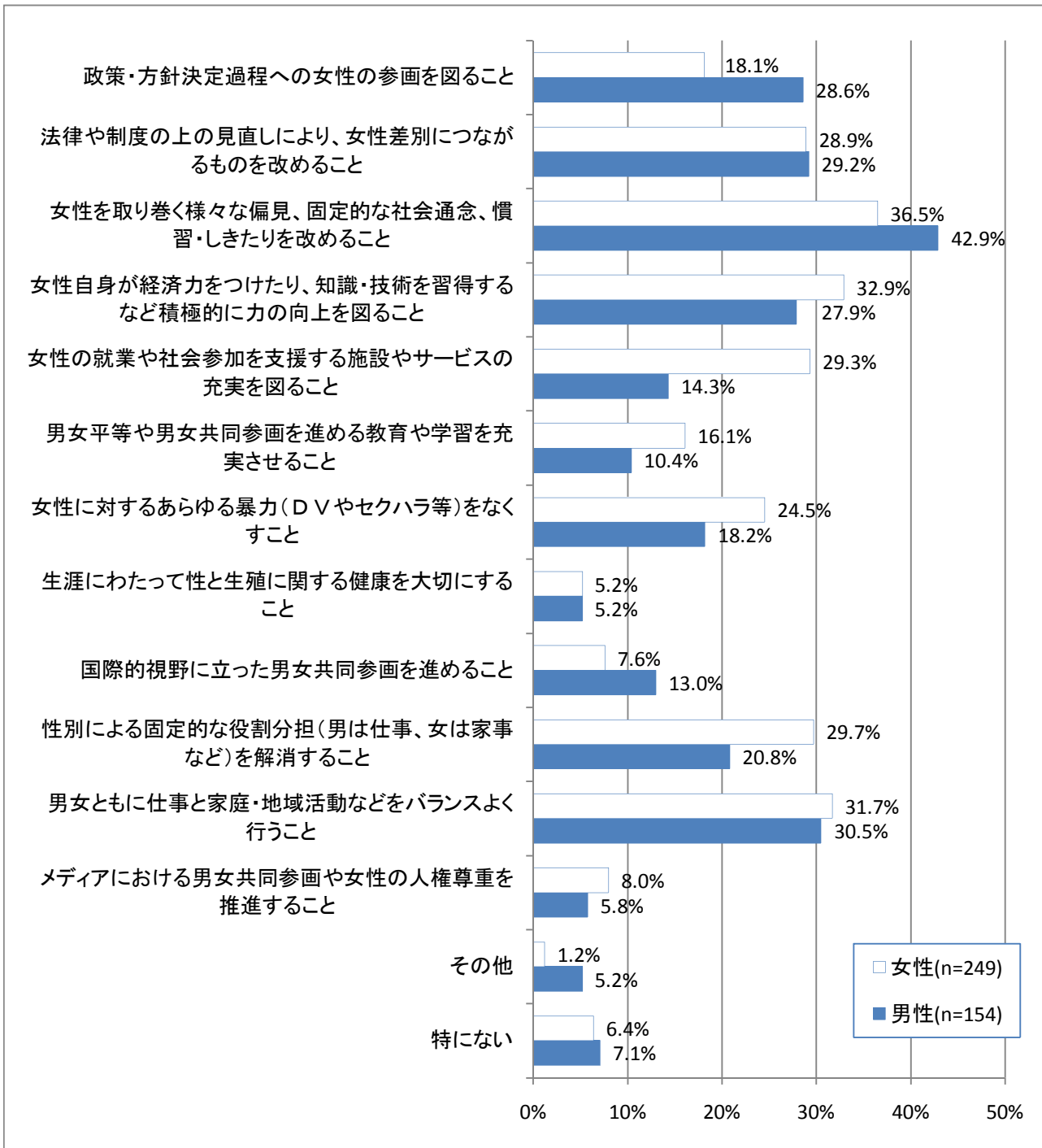
女性の人権が侵害されていると感じることについて、最も多かった回答は「痴漢やレイプなどの性的暴力」で78.3%、次いで「職場などでのセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」で62.7%、「夫や恋人からの暴力」で59.8%となっています。

男女別でも同じ傾向で、男女で差があったのは「職場などでのセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」で、女性が69.1%に対し、男性が53.2%と、15.9ポイントの開きがありました。

平成20年の調査と比較すると、最も増加したのは「“未亡人”などのように女性だけに用いられる差別的な言葉」で15.7%から21.4%と、5.7ポイント増加しました。

7 男女共同参画の取組

問17 男女が平等とともに参画する社会の実現のために、あなたが特に重要と思うことは何ですか。（〇は3つまで）

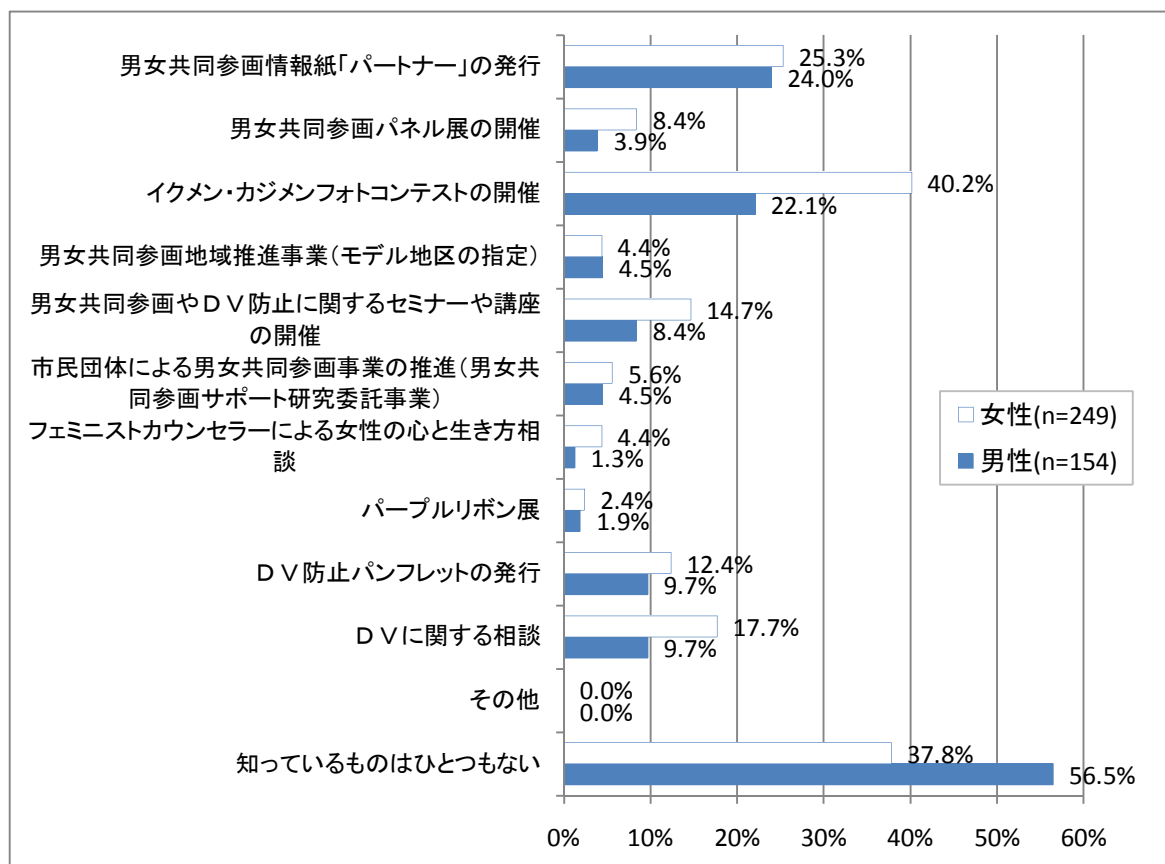


	全体 (n=378)	女性 (n=233)	男性 (n=139)
政策・方針決定過程への女性の参画を図ること	21.3%	18.1%	28.6%
法律や制度の上の見直しにより、女性差別につながるものを改めること	27.8%	28.9%	29.2%
女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	37.1%	36.5%	42.9%
女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど積極的に力の向上を図ること	29.7%	32.9%	27.9%
女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	22.7%	29.3%	14.3%
男女平等や男女共同参画を進める教育や学習を充実させること	13.1%	16.1%	10.4%
女性に対するあらゆる暴力（DVやセクハラ等）をなくすこと	21.0%	24.5%	18.2%
生涯にわたって性と生殖に関する健康を大切にすること	5.1%	5.2%	5.2%
国際的視野に立った男女共同参画を進めること	9.1%	7.6%	13.0%
性別による固定的な役割分担（男は仕事、女は家事など）を解消すること	25.2%	29.7%	20.8%
男女ともに仕事と家庭・地域活動などをバランスよく行うこと	29.7%	31.7%	30.5%
メディアにおける男女共同参画や女性の人権尊重を推進すること	6.8%	8.0%	5.8%
その他	2.6%	1.2%	5.2%
特になし	6.5%	6.4%	7.1%

男女共同参画社会の実現に向けて重要と思うことについて、最も多かったのが「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」で37.1%、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど積極的に力の向上を図ること」と「男女ともに仕事と家庭・地域活動などをバランスよく行うこと」が同率の29.7%となっています。

男女別で最も差があったのは「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」で、女性が29.3%に対し、男性は14.3%と15ポイントの開きがありました。

問18 蕨市が行っている男女共同参画を推進する事業のうち、知っているものはなんですか。（〇は当てはまるものすべて）



	全体 (n=428)	女性 (n=249)	男性 (n=154)
男女共同参画情報紙「パートナー」の発行	23.8%	25.3%	24.0%
男女共同参画パネル展の開催	6.5%	8.4%	3.9%
イクメン・カジメンフォトコンテストの開催	32.0%	40.2%	22.1%
男女共同参画地域推進事業(モデル地区の指定)	4.2%	4.4%	4.5%
男女共同参画やDV防止に関するセミナーや講座の開催	11.9%	14.7%	8.4%
市民団体による男女共同参画事業の推進(男女共同参画サポート研究委託事業)	5.1%	5.6%	4.5%
フェミニストカウンセラーによる女性の心と生き方相談	3.0%	4.4%	1.3%
パープルリボン展	2.1%	2.4%	1.9%
DV防止パンフレットの発行	11.0%	12.4%	9.7%
DVに関する相談	14.0%	17.7%	9.7%
その他	0.0%	0.0%	0.0%
知っているものはひとつもない	43.2%	37.8%	56.5%

蕨市が行っている男女共同参画推進事業についてお聞きしたところ、「知っているものはひとつもない」が43.2%で最も多く、次いで「イクメン・カジメンフォトコンテストの開催」が32%、男女共同参画情報誌「パートナー」が23.8%でした。

男女別で見ても同じ傾向でしたが、「イクメン・カジメンフォトコンテストの開催」は女性が40.2%に対し男性が22.1%と、18.1%の開きがあり、また「DV防止パンフレットの発行」と「DVに関する相談」を足してみると、女性が30.1%に対し、男性が19.4%と、10.7%の開きがあることから、女性の関心が高いことがうかがえました。

自由意見

子育て支援

- ・女性が働き続ける為に、希望すれば保育園に預けられようにしていただきたい。(30歳代女性)
- ・若い夫婦の共稼ぎが多くなっています。安心して子育てできる環境を整えてほしいです。待機児童をなくす等。(50歳代女性)

職場・企業

- ・個人の能力・性格を見て仕事に採用すべき。ふさわしければ女性のリーダーも良いとおもう。(30歳代女性)
- ・企業が積極的に男女平等、男女共同参画の意識を高める事が最も重要だと思います。男性にも育児休暇を認めるなど。休暇しやすい雰囲気づくりも必要だと思います。子供が熱を出して会社を休むのは父親でも母親でもいいはずです。家庭でも社会でも母親の負担が大きいように感じます。(30歳代女性)
- ・子供が幼い時に就職活動をするとう面接の度に「子供が体調を崩した時はどうしますか？」と聞かれます。男性が就職の面接の時には聞かない質問です。こういう時に男女平等はあり得ないと実感します。育児、介護休暇など名前だけのものです。有給すらきちんと取れない会社があるのに育児や介護で休むことなど男性には無理ではないでしょうか？結局は自由に休むことができる人間が作った制度など何の意味もありません。これから先も男女平等など不可能です。(30歳代女性)
- ・女性の賃金の格差があるので是正してほしい。(30歳代女性)
- ・女性が就職するのはとても大変で、収入もどう頑張っても限られてしまいます。結婚しているのであれば多少収入が少なくても…と思いま

すが独身女性からすると先の事を考えると不安になります。親の面倒も見なければならないという事も考えるとせめて仕事だけは…と思います。(30歳代女性)

- ・会社としては男女平等(女性が多い)で、育児をしながら働きやすいのですが、給料、昇進、評価の部分で男性というだけで優遇されています。オーナー自身の考えが男尊女卑なので…。(40歳代女性)
- ・女性の高学歴化は、労働の質を高め、社会全体にはプラスとなるが、結婚した場合は現行の雇用慣行のもとで夫婦が共に働き続け、子育てと両立しにくい事が制約となっている。その大部分の女性は子育てを犠牲にするか仕事を犠牲にするか二者択一を迫られている。雇用慣行を多様な働き方に、中立的なものへと改革する事が必要。(20歳代男性)
- ・取引先の職場では、男よりも女のほうが平等に接してくれてると感じます。ただし、結果としては上からの意見が反映されることになりませんが、上席が男、中間職も男、下職だけが女という組織構造が一般的でないか。平らな目を持った性格の良い能力ある女性が登用される傾向はあると思うが、結婚退職する女性が多い場面を多くみていると、何か女性の登用が増えない事も頷けます。(50歳代男性)

人権尊重

- ・問 16.2。(風俗店)に関する意見です。17号沿いの風俗店をどうにかしてほしいです。(40歳代女性)
- ・男も女も大人も子供も全ての人に人権がある。人の尊厳を大切に生きる。まず、自分を大切に！！そして他人も大切に！男だから女だから大人だから子供だから、そんな固定観念にしばられない「人」を大切にする地域「蔵」であってほしい。そういう教育、そういう啓蒙をし

てほしい。かたよらない心を持てる教育を望む。

(50 歳代女性)

- ・男女平等は、本当の意味での平等はありえないと思います。出来る限り平等に近付ける事はできてても。その為に努力する事は必要ですが。そもそも人間の性の構造が違うのですから。男性が女性を、女性が男性を理解し、思いやる。それが重要では？人間を育成する上で重要です。人間の人権をどう守るかという事に尽きます。

(50 歳代女性)

家族・夫婦

- ・育児・家事について、産むのは女だがその後は夫婦で見れるほうが見るのがよい。手伝いが必要ならば協力すべきである。(30 歳代女性)
- ・離婚時の慰謝料不払いの多さも問題と思います。家庭の家事に対する対価が重んじられない社会通念を一掃するべきです。(30 歳代女性)
- ・私は10年前に2人の息子を連れ離婚しました。元夫は15年の結婚生活の中、2回だけしかお給料はいただけませんでした。仕事をしてもしぐやめ、何ヶ月も休み、突然いなくなったり、そうしている中、私は心の病になり、立ってられない状態になりました。でもなんとか元気になり、下の子が年中さんの頃から働きましたが、お金は入れてもらえないばかりか、入れても又持って行ってしまい子供のお年玉などにも手を出しました。その度に私は精神的な事で倒れ、そして離婚しました。調停を立て月々の家賃と子供の養育費です。でもわずか2年で止まり、その中には子供から借りて私に払っていたと息子から聞きました。何度か調停員にもお話ししましたが、冷たく前向きに考えていただけませんでした。このような制度は何の意味もなく、払ってもらえなくなった時、国から出して下さい。後から本人にその分を請求して欲しい。大変でボロボロです。女性は不利です。(50 歳

代女性)

- ・女性自身の社会参加は、おおいに応援したいと思っているが、結婚し子供を出産後育児休暇等、昔と比べると比較にならない程恵まれているが、2才児～保育園に預け人任せにした育児は将来いかなものか？と思う。もっと母親の側で小学校にあがる位まで自分の手で育て、親の愛情たっぷりの子育てが出来たらいいと思う。それには若い男性の給料面などの問題もあると思うが…。子供を育てながらの女性の職場の仕事はかなりきつい……。 (60 歳代女性)

男女平等・男女共同参画

- ・女性だから守らなければならないという考えは…。 (30 歳代女性)
- ・男は男で大変だ。(30 歳代女性)
- ・男性中心の職種に女性を優先して…というのわかりますが、最近では人手不足の職種はむしろ女性中心の職種が多く、男性が入りにくいように思います。(例えば看護師、保育士、介護など) 男性中心の職種も、女性中心の職種も両方、男女どちらが就いても不利や偏見がないようにすべきだと思います。男性の雇用収入が安定していれば子育てもしやすくなります。(保育所を増やすより一人のお給料で安心して子育てが出来る社会にした方が子供の為だと思います。) 本当に男女平等にしたいのなら、もし結婚したら全員が全員、社会に出る事ばかり考えないで、男女どちらでも一人は家庭を守る人がいればいいと思いますので、主夫への偏見や女性中心の職種の収入の低さが解消されればいいと思います。女性中心の離婚した時の不利が無くなる。男性も就業しやすくなる。(30 歳代女性)
- ・蔵に住んで3年目になりますが、こういった取り組みは知りませんでした。男女とも自然に社会生活できるのがあたりまえのあり方だと思

- っていますが、将来子供を持ったら色々不満を感じるのかもしれませんが。それでもやはり、あまり仕組みを不自然に作らずに男と女の視点に偏らないことは伸び伸び生きることに大事なことと思います。(30歳代女性)
- ・現在の環境下では男女差を感じないのであまり問題意識がありませんでした。(40歳代女性)
 - ・男性、女性と区別せずに、人としてしっかり生きていこう。男女にこだわらず、自然体が良いのでは…。女性でも能力があれば様々な場で評価されるはずです。(40歳代女性)
 - ・人間には得手不得手があると思うので一概に全て男女平等というのは難しいと思う。明らかな不平等さはなくなっていけばいい。せつかくの男女共同参画の取り組みですが、男性のピーアールが弱い気がする。(40歳代女性)
 - ・男女平等と言っても、社会進出や自活する意欲の低い女性が多いのも事実で、又、そうしたくても出来ない社会環境も事実。子育てを犠牲にせず、“働く人が得をする”環境が整って欲しいです。遺族年金だってシングルマザーには無縁。同じ女性でも、専業主婦の方って優遇されてるなあーと思う事もしばしば。(40歳代女性)
 - ・何よりも一人一人が独立することから始まると思う(50歳代女性)
 - ・男女共同参画という事がよくわかりませんでした。調査票を読んで理解できました。(60歳代女性)
 - ・男女が平等にという事は全てが同じになる事とは違うと思います。例えば女性には出産があったりするので、それぞれの特性を考えて平等になる事だと思う。社会全体の認識や慣習なども改めなくてはならないし、女性自身の意識の向上も欠かせないのではないのでしょうか。男女共同参画について今まであまり考えた事がなかったので、この調査に記入する事により認識を持ちました。(60歳代女性)
 - ・男女平等はとても大事な良い事だと思います。男女に関係なく、適材適所があると思います。それぞれが満足出来る為の妨げになる事の無い世の中が大事だと思います。(60歳代女性)
 - ・私自身も男女平等の意識はまだだとは思いますが、男女平等の団体に関わっている方で、夫の事を「主人」と言ったり「お宅の御主人さん」と言う方が多い様に感じます。主従の関係？と、つい思います。(60歳代女性)
 - ・男女平等？人として平等だと思います。男として生まれての役割、女として生まれての役割、それをわきまえた上で、お互いが協力して生活していけたら良いのではないのでしょうか。(60歳代女性)
 - ・男女平等という前にもっと自分を向上させてほしい。私も同じ女性だが、自分だけ良ければよいとか、それぞれ忍耐がなさすぎると思う。世間はそんなに甘くなく、楽な事ばかりではなく、仕事を持っている女性が全て自分の仕事に自信を持っているとは思えない。特に主婦のパートは気楽な仕事に感じます。全部と言わないが男女平等をはきちがえている女性が多くなり、強くなるから男性がふがいなくなるのです。私はイクメンという言葉は嫌いです。男性にはもっと男らしさを出しもっと強くなれ！(70歳以上女性)
 - ・こういうアンケートが出来る事自体、男女平等であると思えない。女性が女性と言うが、それ自体差別だと思う。男性にしか出来ない事、女性にしか出来ない事の役割をしてこそ平等が生まれる。(20歳代男性)
 - ・男女同権とは、女性だけを持ち上げるものではないはずが、実際には男性への圧迫のみとして機能していると思う。男女同権をうたうなら、女性も女性であることを盾にはいけない。その事を実践してほしい。(30歳代男性)
 - ・男女平等にこだわり続けると素晴らしい日本の伝統や文化を壊してしまう恐れがある。戦後の教育で自虐史感を持ってしまったことにより、古き良き時代を学ぶ機会が少なくなっている。今の時代から再び昔の伝統・文化を学ぶことに

より、自分の国を誇りに思えるようになることが、男女平等参画よりも今の日本には急務だと思います。今後さらに蕨市が住みやすい街になることを心より願っています。(40歳代男性)

- ・男性でも現行社会でなく家庭に入りたい人、女性でも社会に出たくない人の事についても護られるように考慮すべきと思う。女性の立場うんぬんと言っている事が差別的な思いがあるのでは？男女関係なく人として(年齢・技術力・経験等)を記載して、その職場の男女比率を調べたり、社会に出たい男女比率(母数)による評価をされたらよいのでは？(40歳代男性)
- ・男女差別と世間は騒いでいますが、男女差別は絶対になくならないと思います。それは男女で決定的な違いがあるからです。それは、男は子供が産めないという現実です。それならば考え方を改めて、より良い男女差別を作る事を考えた方がよいと思います。(40歳代男性)
- ・男女平等や男女共同参画は、女性の権利に視点が集まりやすいですが、現代では男性の権利も場合によっては、女性よりも低いか冷遇されている事があります。(父子家庭への支援、男性が加害であることを前提とした性犯罪やDV等)従って男女平等や男女共同参画を考えるにあたり、女性の権利を尊重する事も大切ですが、男性の権利についても同様に考えるべきであると思います。(40歳代男性)
- ・物事は一つ見るにしても、女性と男性とは物の見方・角度が違うと思う。女性の柔らかな、それでいて現実的な考え方によって、社会のいろいろな流れが変わり、軋轢も減り、トラブルも減っていくと思います。ナイーブでプライドの高い男性のみなさん、どうか大きな心でか弱い女性や子供の心や思い、意見も受け入れてください。(50歳代男性)
- ・一部の積極的な女性は、既に地域の中で熱心に活動をしているが、一般的には消極的な方が圧倒的多数だと思う。掛け声だけで終らせるので

はなく、女性の社会進出の後押しは必須だと思います。(60歳代男性)

- ・環境を整えたり機会を与えても、自身の意識がマイナス志向では参画はできない。各人の前向きな姿勢が(やる気)が大事であり、その心の育成をどの様にするかが問題だと思います。(60歳代男性)

行政・施策

- ・「男女平等」という理念は、人々の背景や状況が「男だから」「女だから」で片付けられない現在では、いたずらに主張すべきではないと思います。そもそもこのアンケート自体「人間個人の背景を汲んでいない」質問と選択肢で、適切でないと感じました。組織がこういう意気込みで男女平等に向かって施策を打っているという事が恐ろしいな、と感じました。(20歳代女性)
- ・そもそも、男女共同参画自体、知らされる機会がないのでは？認知を上げたいのなら、ex.集会(公民館に各自治体で声かけ合う)とか、DMを配るなど考えた方がいいのでは？正直アンケートだけきても「???」って思う。(20歳代女性)
- ・独身男女だけの料理教室や親子教室だけでなく結婚していても子供がいなくても参加できる教室やイベントを増やして欲しい。例)ソフトテニス教室など。(40歳代女性)
- ・これからの社会は共働きが多く、特に急に家族が病気になったりすると生活困難になり、生活が出来なくなる場合に補償してくれたりするものがあって欲しいと思いました。女性は、家事と子育てに忙しく中々仕事にも就けず悩んだりして大変です。保険に入っている、そんな補償がもらえないので、私としてはそういう面もあって考えて欲しいです。よろしくお願ひします。(40歳代女性)

- ・蕨市も男女平等や男女共同参画の事業をいろいろやっているという事を知りました。(50 歳代女性)
- ・男女共同参画も大事な事かもしれないけれど、その前に、役所の人が蕨を歩いて回り困っている事や、市にしてもらいたい事を、皆に聞いて回る事が必要。(50 歳代女性)
- ・市長にはこれからも細かい配慮を願う。(60 歳代女性)
- ・蕨に住み45年以上になるが男女共同参画については知らなかった。もう少し年配の方にもこの様な仕事をしているという事を具体的に知ることができたら良いと思います。(70 歳以上女性)
- ・蕨市に期待する。(20 歳代男性)
- ・女性を尊重しすぎるようなパートナーシッププランの策定はやめてほしい。(他の自治体の男女平等共同参画策定の手伝いをしたことがあるが、女性の市民団体の意見が強すぎて女性よりの共同参画計画になった覚えがある。女性専用車両やレディースデーなど民間においても過度に女性を尊重するような施策は目に余る。ジェンダー・イクメンなどの言葉には違和感を覚える。行政が推進するのはいかがなもの。(40 歳代男性)
- ・市のホームページを見た時に、男女共同参画は素通りしてしまう。関心・興味が出るように何か工夫が必要では。(60 歳代男性)
- ・生活保護受給者の審査を厳しくせよ。不法滞在外国人を一掃せよ。(40 歳代男性)
- ・通勤で蕨駅西口を利用している市民の一人として感じている事があります。蕨市の駅前ロータリー中心部で(一番目立つ所)で喫煙による異臭がして通学、通勤に不快な方もいるのではないのでしょうか。中心部(通行の多い場所)で喫煙所を設ける事は、いかがなものかと思います。可能な限り、是正願いたいものです。(40 歳代男性)
- ・私は独身の男ですので、このアンケートの対象としてはふさわしくないかもしれませんが。ただ、理想を現実にするには、景気回復が一番だと思います。今は男性も女性も就職が難しいですから。(40 歳代男性)
- ・積極的に自分の考え方や行動を起こすべきと思う。人だよりでは変わらない。(50 歳代男性)

その他

- ・蕨市の治安が悪化している。(30 歳代女性)
- ・一戸建に住んでいる人で近所付き合いをしたくない人にとっては町内会の役員やゴミ当番をするのは苦痛です。ゴミ捨てる場合は川口市のように全て袋に入れて出すなど工夫して欲しいです。(30 歳代女性)
- ・防災関連について要望あり。(60 歳代女性)

9 回答者の属性

(1) 地区

	件数	%
錦町	75	17.5%
北町	71	16.6%
中央	102	23.8%
南町	62	14.5%
塚越	97	22.7%
無回答	21	4.9%
合計	428	100.0%

(3) 年齢層

	件数	%
20代	53	12.4%
30代	79	18.5%
40代	86	20.1%
50代	81	18.9%
60代	69	16.1%
70歳以上	40	9.3%
無回答	20	4.7%
合計	428	100.0%

(5) 同居の家族 (複数回答)

	件数	%
本人のみ	36	8.4%
配偶者	281	65.7%
子ども	220	51.4%
孫	9	2.1%
父母	93	21.7%
祖父母	15	3.5%
兄弟・姉妹	29	6.8%
その他	9	2.1%
無回答	21	4.9%
合計	428	100.0%

(2) 性別

	件数	%
女	249	58.2%
男	154	36.0%
無回答	25	5.8%
合計	428	100.0%

(4) 職業

	件数	%
会社員	136	31.8%
自営業	26	6.1%
農業	0	0.0%
自由業	7	1.6%
公務員・教員	21	4.9%
主婦(夫)	107	25.0%
学生	8	1.9%
無職	45	10.5%
その他	56	13.1%
無回答	22	5.1%
合計	428	100.0%



蕨市男女共同参画市民意識調査結果報告書

発行 平成25年9月

蕨市中央5-14-15
蕨市市民生活部市民活動推進室

〒335-8501 蕨市中央5-14-15

電話 048-433-7745

メール siminsit@city.warabi.saitama.jp